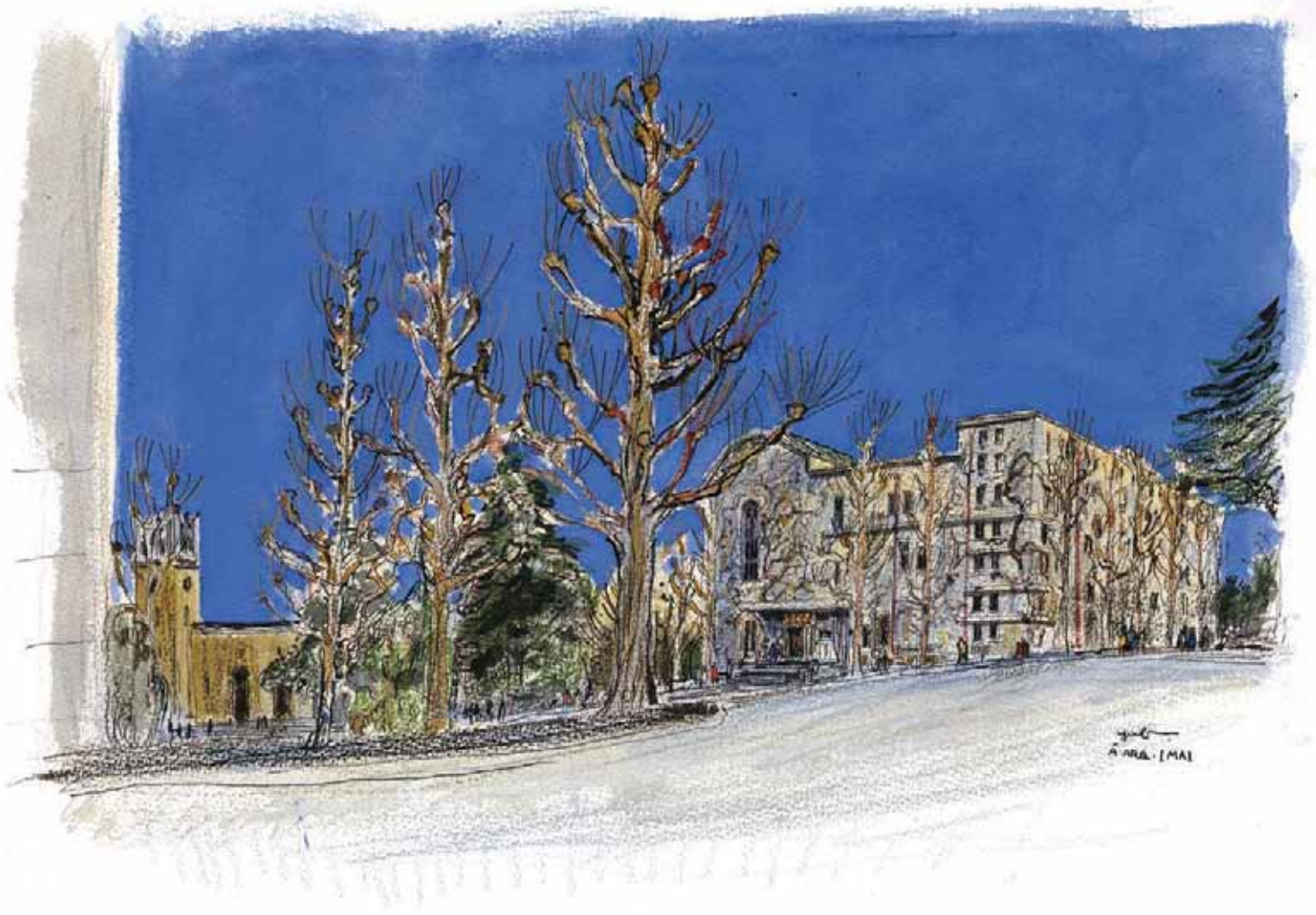
早稲田文化

早稲田大学 文化推進部**年報**

Annual Report of Cultural Affairs Division, Waseda University

2017

- 坪内博士記念演劇博物館
- 會津八一記念博物館
- 大学史資料センター
- 文化企画課



早稲田大学 **文化推進部年報** 2017

Contents

開催名称などによる目次 ……02
ご挨拶
　文化推進担当理事 ……05
　文化推進部長 ……06
　坪内博士記念演劇博物館館長 ……07
　會津八一記念博物館館長 ……08
　大学史資料センター所長 ……09
文化事業（2017年度）
　総括 ……10
　研究活動・教育活動 ……11
　展覧会・催し物 ……13
　出品・展示協力 ……41
地域交流事業 ……42
顕彰事業 ……48
学術研究書出版制度 ……49
刊行物 ……51
オリジナルグッズ ……53
文化発信 ……55
文化施設 ……58
各種会議 ……60
人　事 ……63
統　計 ……64

文化施設マップ・連絡先一覧 …… 裏表紙

※本年報では、紙面の都合上、坪内博士記念演劇博物館を演劇博物館、會津八一記念博物館を會津博物館と省略表記している部分があります。

表紙絵画：藪野　健（早稲田大学栄誉フェロー、早稲田大学名誉教授、早稲田大学芸術功労者、一般社団法人二紀会副理事長、日本藝術院会員、府中市美術館館長）

開催名称などによる目次

1．総括 10

2．研究活動・教育活動 11

3．展覧会・催し物（○展覧会　●催し物） 13

坪内博士記念演劇博物館（展覧会開催順）…… 13

○2017年度春季企画展「テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会」
・野木亜紀子×磯山晶トークショー　『木更津キャッツアイ』から『逃げ恥』まで
・ギャラリートーク
・坂元裕二×是枝裕和トークショー　ドラマの神様は細部に宿る
・ギャラリートーク
・尾野真千子が語るテレビドラマ　『カーネーション』を中心に
○早稲田大学芸術功労者顕彰記念　山田太一展
・山田太一展記念座談会　堀川とんこう×中村克史×長谷正人「山田太一ドラマの演出」
●2017年度シェイクスピア祭演劇講座　「子供のためのシェイクスピア―今を生きる子供たちへ―」
○特別展「あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ」
・現在に生きるアングラ　麿赤兒×四谷シモン×桑原茂夫
・新宿ジャズ対談　山下洋輔×菊地成孔
●enpaku多言語ツアー
●第80回 逍遙祭「シェイクスピアの上演と翻訳」
●親子で探険　エンパクツアー
●エンパク★こども演劇教室2017　演じるってなんだろう？
●蜷川シェイクスピアをめぐって
●劇団東京乾電池　別役実作『小さな家と五人の紳士』
●エンパクシネマ
●日本演芸若手研精会 in 早稲田
●世界を駆け抜けた舞踊家　伊藤道郎―記憶・資料・研究―
●第４回エンパク青空市
●岡崎藝術座リーディング公演『バルパライソの長い坂をくだる話』
●出張体験教室〈常磐津〉
●出張体験教室〈狂言〉
●早稲田大学演劇博物館・文学座共催シンポジウム
「日本物（和物）の芝居の継承とこれからの文学座―百周年に向けて―」
●日本のスクリーン・プラクティス再考：視覚文化史における写し絵・錦影絵・幻燈文化
●無声期の映画館における和洋合奏：楽譜資料「ヒラノ・コレクション」とSPレコード
●鈴木忠志×渡辺保 ―『劇的なるものをめぐってⅡ』上映会
●『演劇クエスト』をつくってみるワークショップ
●国際シンポジウム「不可能への挑戦　形のないアートを保存する」
●時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる！―世界観を形づくる『ヴァーチャル時代語』

會津八一記念博物館（展覧会開催順）…… 28

○茶の道具
・ギャラリートーク
○富田万里子コレクション長崎版画展
○武者小路実篤の書画
○パリから学んだ画家たち―岡鹿之助から嶋田しづまで
○やきものに見る吉祥
○禅書画のたのしみ

開催名称などによる目次

○アフリカ横断一万粁（キロ）―関根吉郎とアフリカ・マヤ資料コレクション―
・「赤道直下一万粁（キロ）アフリカ横断」全編上映会
●早稲田大学所蔵資料に見る日蘭関係史研究の今後
○狩谷棭斎墓碑受贈記念 狩谷棭斎 ―学業とその人―
・ギャラリートーク
○みほとけの形
○直良信夫展 ～再発見された遺産は語る～
・トップ・ランナーズ・セミナー　直良信夫化石コレクションの再発見
・研究者によるサイエンストーク

大学史資料センター（開催順）…… 34
●「新しくみえてきた早稲田の歴史―『百五十年史』編纂過程の成果と課題―」

文化企画課（開催順）…… 34
○パプアニューギニアとの出会い ～早稲田大学収蔵コレクション～
・「パプアニューギニアとの出会い ～早稲田大学収蔵コレクション～」開催記念講演会
●第８回　早稲田狂言の夕べ
●AN EVENING OF KYOGEN with Mansaku Nomura and Mansaku-no-Kai
●Museum Week 2017
●伊藤比呂美 特別講演＆人生相談
●多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ
●第２回　早稲田大学シェイクスピア上演プロジェクト　リーディング公演『コリオレーナス』
●世界ハンセン病デー特別企画「朗読劇『あん』と映画『あん』」
○美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 10周年記念共催展「絵を通して見る坪内逍遙」
●第８回　早稲田学生文化・芸術祭
●早稲田文化芸術週間2017

4．出品・展示協力 41

5．地域交流事業 42

・福島県白河市 …… 白河市・早稲田大学交流事業「白河文化交流館コミネス」オープニングイベント
・長野県軽井沢町 …… 軽井沢町・早稲田大学交流事業「第20回おもしろ科学実験教室」
軽井沢町・早稲田大学交流事業　講演会
・佐賀県佐賀市 …… 大隈重信記念館 開館50周年記念「大隈祭」
・岐阜県加茂郡八百津町 …… 岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティー・コンサート'17」
・東京都 ……「歴史的建造物の保存を支援するチャリティコンサート」
・中野区 …… 早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2017」
「Maple Concert 2017」関連企画「小学生向けワークショップ」
・静岡県熱海市 …… 第47回逍遙忌記念祭
・新宿区 …… 平成29年度　新宿区夏目漱石コンクール　読書感想文コンクール
平成29年度　新宿区夏目漱石コンクール　絵画コンクール
新宿区立 漱石山房記念館 開館記念イベント
第８回　早稲田の街スプリングコンサート
平成29年度　文化庁補助事業「新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会」
・岐阜県美濃加茂市 …… 第10回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業学生公演
早稲田・美濃加茂交流まち演劇プロジェクト「まち × 演劇 × アート」
木立に響く逍遙　vol.8
みのかも「声のドラマ」の会朗読公演
・千葉県鴨川市 …… 鴨川市・早稲田大学交流事業「第20回おもしろ科学実験教室」
鴨川市・早稲田大学交流事業　講演会

開催名称などによる目次

6．顕彰事業 48

・早稲田大学坪内逍遙大賞
・若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）
・梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）
・旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」
・小川未明文学賞（新潟県上越市）

7．学術研究書出版制度 49

8．刊行物 51

9．オリジナルグッズ 53

10．文化発信 55

・Waseda Online（ワセダオンライン）
・メールニュース
・新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの
・早稲田大学文化資源データベース

11．文化施設 58

12．各種会議 60

13．人　事 63

14．統　計 64

・文化施設マップ・連絡先一覧・・・・・・・・・**裏表紙**

文化推進部

ご挨拶

文化推進担当理事　李　成市
（文学学術院教授）

早稲田文化の発信　文化推進部年報2017年度版の刊行にあたって

早稲田大学は、建学以来、積み重ねてきた歴史と伝統を通して、日本社会とその文化に貢献してきました。その蓄積は、しばしば早稲田らしさ、あるいは「早稲田文化」と称され、在学生、教職員、卒業生を含め広く早稲田関係者の誇りを醸成してきました。

文化推進部は「早稲田文化」の発信の中心的な役割を担うとともに、学生・校友・地域へと、広く開かれた連携による「知」の共創と創出を図りながら社会に貢献することを目指し、2007年に設置されました。従来から独自に展開してきた坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの三機関に、文化推進部直属の事務組織として文化企画課を加え、それぞれが独自の役割を担いつつも、それらが早稲田における「文化の束」として一体となって活動をしています。

早稲田大学では、国宝２件、重要文化財７件、重要美術品８件を含む美術品、書画、博物資料、図書資料、映像資料など、約500万点以上を所蔵していますが、これらは早稲田文化の核をなす貴重な文化資産です。文化推進部ではこれらの資源の公開と活用にも積極的に努めています。

文化活動を展開する上で充実した文化施設は不可欠ですが、2014年には学内外に早稲田大学の歴史と未来を発信する拠点である「ワセダギャラリー」をリニューアルオープン、2015年には27号館１階を改修してショーウィンドウスペースを創設するなど、文化活動の拠点も拡大させてきました。2018年３月には既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館に加え、新たに３つ目のミュージアム「早稲田大学歴史館」を開館。本学の歴史（過去・現在・未来）に関する資料や情報を、単なる通史の平板な陳列ではなく、来館者がそれぞれの関心に応じて新たな発見ができるよう、多様な切り口で提示しています。さらに、2019年３月には戸山キャンパスに竣工の「早稲田アリーナ」内に「スポーツミュージアム」も設立する予定です。

早稲田大学では、2032年の創立150周年に向けて中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、理想の大学像を打ち立てるための各種プロジェクトを検討・実施しており、文化推進部でも「早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」を核心戦略のひとつに掲げています。

早稲田文化を早稲田の内外、特に、外から見たとき、それは早稲田らしさと結びつきます。早稲田らしさが語られるとき、早稲田の関係者は、早稲田への帰属意識と誇りをあらためて感じることになります。「早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」の目的は、１．早稲田文化とは何かをあらためて確認するとともに、その充実と展開のプロセスを明らかにすること、２．早稲田文化を早稲田らしさの評価につなげ、その評価を高めること、３．早稲田の誇りの一層の醸成にあり、各目的の実現を通して新たな文化の創成への寄与を目指しています。この目的の実現のために７つのプロジェクトを立ち上げ、独創的な事業に取り組んでいます（①文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト、②地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト、③バーチャルミュージアム―文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト、④早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト、⑤早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト、⑥早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト、⑦ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト）。

☆

社会における大学の存在意義は、何よりもまず教育・研究にあるのはもちろんですが、そこから生成される「文化」の力を発信することにより、大学と社会の結びつきをより強め、ひいては社会の豊かさに貢献する、そこに文化推進部の真にして無二の役割がある、と確信しております。東西古今の「文化の潮」が渦巻く早稲田からの力強い文化発信と、早稲田の文化を未来の世代へ承け継ぐことが私どもの大切な使命であると考えています。

「早稲田文化」は「スポーツ」や「科学」などの分野をも含み、学生、卒業生の活動・活躍も早稲田文化の重要な構成要素です。また、本学の校友だけではなく、広く社会一般の方々にも理解、共感を得て、早稲田文化を拡げて行きたいと考えています。今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

文化推進部

ご挨拶

文化推進部長　十重田　裕一
（文学学術院教授）

文化推進部の動き（2017年度）

本学文化推進部は、早稲田文化の魅力ある発信を目指して、2017年度も多種多様な文化事業を実施して参りました。文化推進部として推進する事業は、大きく分けて「大学施設を利用した文化事業」と、「地域交流事業として主として学外において実施する文化事業」の２つとなります。

前者としては、４月恒例の、早稲田大学芸術功労者の野村万作様、ご子息の野村萬斎様による「早稲田狂言の夕べ」、学生が主体的に演劇・映画・音楽などの活動を企画運営する、６月開催の「早稲田学生文化・芸術祭」、10月の創立記念日の前後に、大学の教職員や大学内各箇所が主催する「早稲田文化芸術週間」が主たるものとなりますが、このうち「狂言の夕べ」については、本学とUCLAの連携により、2017年５月５～９日にわたり、カリフォルニア大学ロサンゼルス校にて「AN EVENING OF KYOGEN with Mansaku Nomura and Mansaku-no-Kai」、および学際的なシンポジウムとワークショップを開催しています。

また、大学が過去から積み上げてきた文化資産を学生に周知したいという思いから、2015年度より、大学内の文化施設（坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター）が収蔵する文化・情報資源をより積極的に利用・活用してもらえるきっかけとなるよう、５月に「Museum Week」を展開。これは、各施設を利用してコンサートなどを行う「Museum LIVE」、各施設を専門担当者が案内する「Museum Tour」、そして学内各文化施設を横断して展開する「Museum Word Puzzle」などからなり、一般の方を含め多くの方から好評を得ています。そのほか、学内の各箇所により大隈記念講堂、小野記念講堂、ワセダギャラリー、125記念室などを活用し、数多くのイベントや企画展示を実施しました。

次に、後者の「地域交流事業」については、2017年度も以下のような展開を行いました。

・福島県白河市　「白河グリークラブコンサート」（白河文化交流館コミネスのオープニングイベント）
・千葉県鴨川市　おもしろ科学実験教室
・東京都中野区　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2017」
・長野県軽井沢町　おもしろ科学実験教室
・岐阜県八百津町　「ワセダ・ヒューマニティ・コンサート'17」
・岐阜県美濃加茂市　早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業
学生公演「美濃加茂に贈る、あたしとぼくの、ヒーローのショー」
みのかも「声のドラマ」の会　朗読公演

このうち、おもしろ科学実験教室については、鴨川市・軽井沢町がいずれも20周年イベントであったことから、参加者が自分で試して作る例年の実験教室に加え、見て参加して楽しむ演示実験を実施し、多くの方に楽しんでいただきました。また、美濃加茂市では本学との文化交流協定締結10周年を記念し、『早稲田・美濃加茂交流まち演劇プロジェクト「まち × 演劇 × アート」』が開催されました。

文化推進部の関係三機関（坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター）も、活発な活動を行うとともに、特色のある取り組みを展開しています（その詳細は本年報をご覧ください）。2018年３月に新たなミュージアム「早稲田大学歴史館」を開館、本学の歴史（過去・現在・未来）を常設展示と企画展示により多様な切り口で提示しておりますので、こちらにも是非足をお運びいただきたくお願いします。

早稲田大学では、数々のイベント関連情報を、文化推進部のウェブページ、メールニュースを中心に発信してきましたが、2017年度に現在の代表的といえるソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）への展開を行い、発信力を更に強化しました。

また、大学には公開されていない多くの貴重資料が収蔵されています。大学では、これらの貴重資料を多くの方にご覧いただくことができるよう、また学術的な研究にも役立てられるよう、インターネットを活用した「早稲田大学文化資源データベース」の整備を進め、2017年６月に公開しました。

本学としては、みなさまに早稲田文化をより身近なものとして感じていただけるよう更に力を入れて参りますので、今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

坪内博士記念演劇博物館

ご挨拶

坪内博士記念演劇博物館館長　岡室　美奈子
（文学学術院教授）

2017年度の演劇博物館（エンパク）

演劇博物館は1928（昭和３）年に坪内逍遙が創立して以来演劇文化の発展に貢献してきたが、2018年に開館90周年を迎える。そこで90周年記念リニューアルのために、2017年度後半は休館させていただいた。日頃エンパクをご利用の皆様や、展示を楽しみにしてくださっている皆様にはたいへんご迷惑をおかけしたが、おかげさまで2018年３月23日、早稲田大学歴史館開館の３日後に無事リニューアルオープンの日を迎えたことを、まずはご報告させていただきたい。

2017年度は半年休館したとはいえ、演劇博物館は例年以上に多彩な活動を行うことができた。春季企画展「テレビの見る夢―大テレビドラマ博覧会」は、局の垣根を越えてテレビドラマの通史を台本、スチル、映像などの資料を豊富に使って展示したことが大きな話題となり、テレビ・新聞・雑誌・ネットニュースなど様々なメディアで取り上げられ、エンパク史上最高の来館者数を記録した。同時開催の「早稲田大学芸術功労者顕彰記念　山田太一展」も、日本を代表する脚本家の展示とあって、多くのドラマファンが足を運んでくださった。どちらも、TBS、フジテレビはじめ民放キー局とNHKや多くの制作者の方々のご協賛・ご協力の賜物である。記して感謝したい。記念イベントも大盛況で、『逃げるは恥だが役に立つ』の脚本家・野木亜紀子氏と宮藤官九郎ドラマで知られるTBSプロデューサーの磯山晶氏のトーク、『カルテット』の脚本家の坂元裕二氏と映画監督で本学教授の是枝裕和氏とのトーク、俳優の尾野真千子氏と『カーネーション』で知られるNHKディレクターの田中健二氏のトークは、どれも参加申し込みが殺到し、満員御礼となった。テレビ離れなどと言われるが、テレビへの関心の高さはまだまだ健在であることを立証したと言えよう。

また、６月から７月にかけて、2016年度にエンパクで開催して好評だった「あゝ新宿　スペクタクルとしての都市」展の第二弾「あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ」展を、大学を飛び出し、新宿の一等地にある新宿高野ビル特設会場で開催できたことも、2017年度の特筆すべき事件である。これはNHK首都圏ネットワークでNHKの秘蔵映像とともに紹介され、注目を集めた。イベントも豪華で、麿赤兒氏、四谷シモン氏、桑原茂夫氏、山下洋輔氏、菊地成孔氏が絶妙のトークで満員の会場を沸かせた。

秋は展示こそなかったものの、文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」として、「新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会」主催で多くの事業を行った。中でも柄本明氏ら東京乾電池による展示室を使った演劇公演や、前舞台を使って弁士・生演奏付きで行った野外無声映画上映会「エンパクシネマ」は、休館中の建物を活用したイベントとして話題を呼んだ。また、エンパク初の試みとなった「エンパク★こども演劇教室2017　演じるってなんだろう？」では、講師に平田オリザ氏を迎え、演じることの楽しさを小中学生たちに伝えることができた。夏休みに開催した「親子で探険　エンパクツアー」にも予想外に多くの来場者があり、善竹十郎先生らによる狂言教室をはじめとする特別支援学校での出張講座も大人気で、エンパクが地域に根づいてきたことの手応えを感じることができた。年明けに鈴木忠志氏・渡辺保氏をお迎えして開催した、『劇的なるものをめぐってⅡ』上映会とトークでは、記録映像によって伝説の舞台を初めて目にした来場者も多く、貴重な機会となった。ほかにも、落語会「日本演芸若手研精会 in 早稲田」や岡崎藝術座リーディング公演『バルパライソの長い坂をくだる話』、「『演劇クエスト』をつくってみるワークショップ」や、英国のヴィクトリア＆アルバート博物館とテキサス大学ハリー・ランサム・センター、ICCからキュレーターをお招きしたアーカイブをめぐる国際シンポジウム「不可能への挑戦形のないアートを保存する」など多彩な活動を行い、いずれも好評をいただいた。演劇映像学連携研究拠点（文部科学省共同利用・共同研究拠点）やデジタル・アーカイブも順調に実績を重ね、くずし字OCRや仮面の3Dデータの開発は先進的な事業として海外からも注目を集めている。

開館90周年を迎える2018年度は、記念事業として常設展のリニューアルを行ったほか、春季企画展として「ニッポンのエンターテインメント　歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱」を開催し、記念イベントには、素浄瑠璃公演「豊竹呂太夫『志渡寺』に挑む」と三代襲名スペシャルトークショー「待ってました、高麗屋！」という、90周年にふさわしい豪華な企画を予定している。秋には現代演劇の展示を予定しており、いずれも演劇博物館の王道である。

90周年の節目を迎え、ますます躍進するエンパクにご期待いただければ幸いである。

會津八一記念博物館

ご挨拶

會津八一記念博物館館長　塚原　史
（法学学術院教授）

2017年度AIZU MUSEUMの活動と今後の方向性

會津八一記念博物館（以下Aizu Museumと記す）は1998年創設なので、2017年度は満20年の区切りとなった。創立20周年の行事などは来年度に予定されているが、本稿では一足早く、Aizu Museumの過去を振り返りつつ、現状の課題と今後の展望について手みじかに述べておきたい。

會津八一は1926年から本学文学部で東洋美術史を講じたが、当初から「実物尊重の学風」を説き、みずから蒐集した東洋美術のコレクションを学生に公開して早稲田に博物館を設置することの重要性を強調し、ちょうど大学図書館が開館したこの年に「新築の図書館と同じ位の大きさの博物館がわが学園の一隅に聳え立つ日の一日もすみやかならんことを祈る」（早稲田大学新聞）と述べていた。そして會津博士の構想から72年後に、奥島孝康元総長を始めとする関係各位のご尽力で八一の名を冠した当館が誕生するに至ったのである。開館に当たっては、元館長大橋一章先生がこう述べておられたことを思い出しておこう――「會津が早稲田大学で博物館の設置を提唱してから、すでに70年以上の月日が経った。かつての會津の思いをいくらかでも活かした博物館が、會津が新築の図書館と同じくらいの大きさといった今井兼次設計の旧図書館（２号館）を再生して開館することになった。感慨ひとしおである」（当館HP参照）。

20年後の今日なお、私たちはこの感慨を共有するものであり、「実物尊重の学風」を唱えて「どれ程理論が立派に出来上がって居ても何所かに、実物を根底にする真実性が含まれて居なければ、即ちそれは空論だ、空学だ」（同上HP）と繰り返し強調していた會津八一の信念に基づいて設立されたAizu Museumは、まさにUniversity Museumにふさわしい性格を備えているといってよいだろう。私たちの博物館は、東洋美術、近代美術、考古・民族（俗）学を主要な対象領域として２万点を越える作品・資料を収蔵する博物館であり、館内には毎日数万の学生が行き交う学園には数少ない静謐な空間が広がり、横山大観・下村観山共作「明暗」、前田青邨「羅馬使節」などの名品の数々が来館者を迎えてくれることは周知の通りである（ほかに「すたすた坊主」などの禅画で知られる富岡重憲コレクション展示室を設置）。そのことをひとまず確認した上で、年に数回開催される企画展に目を移すと、そこでは縄文式土器から秋艸道人（八一）の書や奈良美術、さらには日本の近現代美術まで、Aizu Museumならではの展示に出会うことができる。

各国の主要大学は充実した美術館・博物館を有し、その存在と活動が大学の学術的社会的評価に貢献していることはよく知られている通りである。それらの多くは先達の碩学や寄付者・寄贈者の名を冠しており、早稲田大学でも、当館はもちろん坪内逍遙博士記念演劇博物館も開設のきっかけとなった偉人にちなんだ名称である。そのこと自体は大学の学問・文化の伝統を同時代の人々ばかりでなく、はるか後世に伝えるという大きな意味があるが、他方、名称がMuseumの方向性をある程度限定する傾向もないわけではない。Aizu Museumの企画展は、当館の展示が會津八一所蔵の中国の古美術品を中心とする「會津コレクション」から始まったこともあり、従来は東洋美術に重点が置かれた感があったが、近年では、荒川修作展、ル・コルビュジエ展、「パリから学んだ画家たち」展など、近現代美術（モダンアート）系の企画が少しずつ増加しており、私自身、「會津博物館でアラカワ展ですか」と美術関係者に驚かれたことがあった。とはいえ、Aizu Museumの創立理念が前述の「実物尊重の学風」に基づいている以上、「実物」の範囲は時代とともに拡がるから、モダンアートに関心を抱く学生たちにとっては「アラカワ」もまた「実物」なのである。こうした観点から注目されるのは、2017年度に開催された上記「パリから学んだ画家たち―岡鹿之助から嶋田しづまで」展である。同展は本学文学学術院の坂上桂子教授が企画され、当館が所蔵するパリにゆかりのある画家の作品を選んで、ゼミの院生たちが図録執筆から展覧会運営まで積極的に協力したユニークな展覧会であり、来場者数は過去数年で最多に達した。

以上のような過去と現在の素描から浮かび上がる今後改善すべき重点課題としては、およそ次の諸点が挙げられるだろう。

１）在学生の入館者が意外に少ないこと。本部キャンパス内の大学博物館ではあるが、早稲田の学生は年間入場者数の２割以下との推計もある。戸山、理工、所沢キャンパスから附属・係属校も含めて全在校生が卒業までに数回は足を運んで貰えるよう、Aizu Museumとしても魅力ある展示や企画を構想していきたいので、各学術院・学校の先生方のさらなるご協力をお願いしたい。

２）国際対応が遅れていること。近年、アジア、アメリカ、ヨーロッパ諸国など海外からの訪問者が増加の一途をたどっているにもかかわらず、英語や中国語をはじめとする外国語対応は現状では必ずしも十分ではない。今後は、いっそうの改善を図りたい。併せてバリアフリー化もぜひ実現したいものである。

３）長期間勤務可能な学芸員がいないこと。現状では、東洋美術、近代美術、考古・民族（俗）学の助手（学芸員）は３名だが、任期は延長の場合を含めて最長３年であり中・長期に渡る運営・展示・収蔵計画を策定し難い。この問題は私たちの博物館だけでは解決できないが、学内各位のご理解が得られれば幸いである。

当館では「実物尊重」の現代化を進めて多彩な展示を心がけていることもあり、来館者数は数年前の年間一万数千人程から四万数千人へと着実に増加している（2012年度13,403人／2016年度48,203人）。今後とも、東洋美術、近現代美術、考古・民族（俗）学のバランスの取れた収蔵展示にいっそう力を入れて取り組むことが必要となっている。

ところで、パリのルーヴル美術館が古代エジプトの『書記の像』からドラクロワ『民衆を導く自由の女神』まで、世界的名品の膨大なコレクションで知られることは言うまでもないが、じつはこの伝統美術の殿堂でピカソが展示されたことがあった。第二次世界大戦後間もなく、ピカソはパリ近代美術館館長ジャン・カスーの要請を受けて数点の絵画を寄贈したが、その返礼として、フランス国立美術館協会会長ジョルジュ・サルは、それらの作品を近代美術館に先立ってルーヴル美術館で公開したのだった（A.S. Huffington, *Picasso, Creator and Destroyer*, 1988参照）。

話が飛躍しすぎるようだが、Aizu Museumも創立30周年を迎える頃にはピカソの絵画を展示できるようなArt Museumに発展していることを切に願っている。

大学史資料センター

ご挨拶

大学史資料センター所長　大日方　純夫
（文学学術院教授）

大学史資料センターの動き（2017年度）

大学史資料センターは、早稲田大学の歴史、創設者大隈重信および関係者の事績を明らかにし、これを将来に伝承するとともに、比較大学史研究を通じて、本学の発展に資することを目的としています。さらに、「早稲田学」を開設して大学教育の一環としての自校史教育を担い、百五十年史編纂事業の事務局としてその中心事務を担当しています。

(1)資料の収集・整理・保存・公開とレファンス

引き続き本学の文書および本学関係者に関する資料を整理して、保存・公開を進めました。本年度は、個人・団体からの寄贈22件（500点）、本学各箇所や教員組合・職員組合などからの移管８件（679点）がありました（新収資料の合計は1,179点）。刊行物・テレビなどへの資料の掲載希望や所蔵写真の使用に関する許可申請は本年度も多数あり、それぞれについて可否を判断しました。

所蔵資料のデータベースとして、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の助成をうけた「保守と革新の近現代史データベース」を引き継いで、2014年度から科学研究費補助金による「社会運動情報資源データベース」のデータベース化を推進しており、本年度もこれを継続して、「日本社会党関係資料」を対象にその拡充を図りました。

(2)企画展示・講演会等の開催

本年度は、例年開催してきた年３回の企画展示（春季企画展・新収資料展・秋季企画展）を、早稲田大学歴史館（以下、歴史館）設立準備のため、実施しませんでした。また、大学史資料センターが管理運営にあたってきた大隈記念室（２号館１階）は、2017年８月６日をもって閉室しました。大隈重信を紹介・記念する場が歴史館の中に移ることになったためです。2017年４月以降閉室までの入場者数は12,581人でした。また、2007年の開室以来約10年間の来室者数は約16万人となりました。

歴史館が開館し（2018年３月）、文化推進部のもとで管理・運営されることとなったため、早稲田大学や大隈などに関する恒常的な展示に大学史資料センターが責任を負うことはなくなりました。歴史館の開館準備に際して、大学史資料センターは、常設展示「久遠の理想」エリアの展示内容（一部を除く）を担当し、また、開館記念の企画展「東京専門学校に集った学生たち―在野精神の源流―」を担当・準備しました。

(3)出版・刊行事業

①『早稲田大学史記要』：年１回、発行しています。本年度は、第49巻（A5判、291頁）を発行し、また、Web（図書館運営の「早稲田大学リポジトリ」）で公開しました。同巻には、論文１本と、昨年度の「大隈祭」の講演、「早稲田学」の公開講義の記録、「大学史セミナー」の講演録（第３回）などが掲載されています。

②『早稲田の戦没兵士“最後の手紙”―校友たちの日中戦争―』（A5版322頁）を編集し、芙蓉書房出版より刊行しました。日中戦争で戦死した校友266人の履歴・軍歴・戦死状況・手紙（当時の『早稲田学報』に連載）を収録したものです。

(4)自校史教育の展開

①「早稲田学」：本年度も、グローバルエデュケーションセンター設置科目として「早稲田学」を開講し、学生に対して早稲田大学の歴史を講義しました。本年度は、クォーター化に対応した科目の編成替えを行い、「『早稲田学』の基礎α（日本近現代史のなかの早稲田大学）」（春クォーター）、「『早稲田学』の基礎β（創設者大隈重信と建学者たち）」（夏クォーター）、「『早稲田学』の探求α（人物で探る早稲田）」（秋クォーター）、「『早稲田学』の探求β（テーマから探る早稲田）」（冬クォーター）を開講しました。また、公開講義として、春クォーターに「私が体験した戦争と抑留」を、秋クォーターに「大山郁夫と早稲田大学」を実施しました。

②新入生向け教育プログラム：オンデマンド講義「わせだライフABC～充実した学生生活を送るために～」のテーマ８「早稲田大学の歴史」を担当しました。

(5)百五十年史編纂事業

大学史資料センターが事務を担当し、事業の推進にあたっています。本年度は、第１巻の編集執筆に取り組み、第２巻の重要事項などについて検討をすすめました。また、学内外の資料の調査・収集をすすめるとともに、大学関係者への聞き取り調査（座談会を含む）を２回実施しました。

「Web版資料集」の編集・公開事業として、「早稲田人名データベース」の追加・公開、「戦争犠牲者データベース」の公開、『早稲田大学百年史』のデジタル化・Wiki化による公開を、それぞれ具体化しました。また、Wikiシステムを活用した『早稲田大学百五十年史』編纂システムの構築についての検討をすすめました。

「大学史セミナー」について、本年度は拡大版シンポジウムとして、「新しくみえてきた早稲田の歴史―『百五十年史』編纂過程の成果と課題―」を10月に開催しました（118人参加）。

(6)共催・協力事業

各地域・団体の要請に応える協力事業として、例年通り佐賀市大隈重信記念館の「大隈祭」（５月14日）に講師を派遣しました。早稲田大学先進理工学部応用化学科「江戸後期、知の探究者たちが切り開いた世界」展、南アルプス市立中央図書館「ふるさと人物室第３回展示『石橋湛山×気骨』」展示会、慶應義塾体育会・慶應義塾福澤研究センター「特別展 近代日本と慶應スポーツ―体育の目的を忘るゝ勿れ―」などに協力しました。

文化事業
文化事業総括

早稲田大学では、本学が持つ有形・無形の文化資産をもって、文化面においても日本のリーディングユニバーシティであるよう、多岐にわたる活動を行っています。それらの取り組みは、本学が一丸となって取り組みを行っている“Waseda Vision 150”の大きな柱のひとつとして位置付けられており、学内各箇所が個別に実施してきた文化事業活動に優先・重点事業を設定し、より高い文化力を発揮できるように取り組んでいます。

1.“Waseda Vision 150”への取り組み　http://www.waseda.jp/keiei/vision150/index.html

本学では、アジアのリーディングユニバーシティとして確固たる地位を築くための中長期計画“Waseda Vision 150”を策定しました。

文化推進部では、「核心戦略６　早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」を担当し、現在７つのプロジェクトを実施。2017年度のSTAGE１終了を迎え、各プロジェクトは当初の計画達成のために多くの事業を遂行しました。

【７つのプロジェクト】

１）文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト
（webサイトやFacebook、Twitter、Instagram、メールニュース等で本学の文化・芸術活動を幅広く広報）
２）地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト
（本学に縁が深い都県を中心に、学生団体などによる音楽活動、演劇活動などの連携事業、文化活動を実施）
３）バーチャルミュージアム―文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト
（文化資源データベースを公開。公開データベース数49、公開データ数78万件以上）
４）早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト（『早稲田大学百五十年史』１～３巻の作成と関連シンポジウムなどの開催）
５）早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト（早稲田アスリートプログラム（WAP）などの推進）
６）早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト（早稲田大学歴史館の開館。「大隈重信演説談話集」の卒業生への配布と「大隈重信自叙伝」の刊行）
７）ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト（演劇博物館各種イベントの実施。早稲田小劇場どらま館での演劇公演）

2.キャンパスのミュージアム化と世界に向けての文化発信　―早稲田の文化を未来の世代へ―

早稲田大学は、1882年の創立以来、坪内逍遙らを嚆矢とする文学研究や、図書館・博物館における文化的資料の収集・公開を進めるとともに、芸術家、小説家、批評家、演劇人、映画人など、文化の発展に寄与する多くの人材を輩出してきました。また、500万点を超える図書、図書資料、美術品、書画、博物資料、映像資料、記録文書類などの「早稲田文化」の資源の公開と活用をとおして、大学の使命のひとつである「社会貢献」を果たしてきました。価値観の多様化、広範な異文化間の交流、多文化社会の形成により、現在、早稲田大学の文化的使命はますます大きくなっていると認識しています。こうした社会状況の中で、文化推進部では２つの事業に積極的に取り組んでいます。

（1）地域社会に開かれたキャンパスそのものをミュージアムにする

学生・教職員、卒業生のみならず来校する方々の知的関心を満たすキャンパスづくりを行う事業。絵画や彫刻の実物にふれることができるとともに、研究者や大学院生、学生の文化活動を直接目の前にして共有できる空間があり、早稲田らしさを感じ、早稲田に愛着をもてる空間を創ります。2014年に学内外に早稲田大学の歴史と未来を発信する拠点である「ワセダギャラリー」をリニューアルオープン、2015年に27号館１階を改修してショーウィンドウスペースを創設するなど、着実に文化活動の拠点を拡大してきました。更に、早稲田大学歴史館をオープン。これは、本学の歴史（過去・現在・未来）に係る情報や資料などを展示し、本学の持つ個性や魅力を学内外に広く発信する役割を担っていくこととなります（詳細は「３.早稲田大学歴史館の開館」をご覧ください）。また、2019年３月開館を目指して、スポーツミュージアムの開設準備を行っています。

（2）バーチャルミュージアムを実現し、世界に向けて文化発信する

早稲田大学の文化資源を、先端技術による三次元などの仮想空間の中で、実際には「触れる」ことが難しい美術工芸品を生き生きとした姿で再現させ、これまでにない新たな文化体験ができる、それがバーチャルミュージアムです。実現すれば、早稲田のキャンパスに限定されることなく広く世界中で早稲田の文化資産に接することができるようになります。

本学創立以来、130年を越える歴史の中で培ってきた膨大な実績と取り組みをまとめ、そして今後も発信していくには、大きな費用がかかるのもまた事実です。そのため2014年度より「早稲田文化振興」のための募金活動を開始し、2017年度には、早稲田大学の文化事業全体を支える寄付制度として「早稲田文化募金」を募集しています。今後もより多くの方々にご賛同をいただきたく、ご理解の程をよろしくお願いいたします。

3.早稲田大学歴史館の開館

135年を超える本学のこれまでの歩みの上に、グローバルユニバーシティとしてさらに発展し続けている現在の姿を可視化する場として、2018年３月20日、１号館１階に早稲田大学歴史館が開館しました。館内の展示は、常設展示エリアと企画展示エリアで構成されています。常設展示は大隈重信や小野梓など草創期の功労者も含めて、早稲田の源流をたどれる「久遠の理想」エリア、早稲田の教育・研究の今・昔や、グローバル化の進展など現在進行形の早稲田を展開する「進取の精神」エリア、傑出した校友や大学関係者の多彩な人物像を紹介する「聳ゆる甍」エリアで構成され、ほかに企画展示ルーム、シアタールーム、リサーチルームを有しています。また、歴史館入口にはカフェ、ミュージアムショップ、大学のインフォメーションルームも併設し、歴史館を訪れる方々が「早稲田らしさ」を共有し、早稲田の誇りを直に体感できる施設を目指しています。

早稲田大学歴史館入口

「久遠の理想」エリア

「進取の精神」エリア

「聳ゆる甍」エリア

1. 坪内博士記念演劇博物館

(1) 研究活動

①共同利用・共同研究拠点「演劇映像学連携研究拠点」

事業の主旨

演劇映像学連携研究拠点は、2009年度から2013年度まで、文部科学大臣より「共同利用・共同研究拠点」として認定を受け、「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」を実施してきた。その実績が評価され、2014年度には再認定を受け、現在第２期の研究活動を推進している。

第２期においては、演劇博物館に収蔵されながらいまだ十分に学術的に活用されていない貴重な未発表資料群を研究資源として提供するという方針を打ち出した。この方針に沿って、未発表資料群のリストをウェブページ上で公開して研究課題を公募し、厳正な審査により４件を採択することによって、テーマ研究１件と併せて５チームが研究活動を行ってきた。2017年度は、継続課題４件と、新規課題１件によって、これまでの成果の発表など活発な研究が進められた。

研究課題　※括弧内は研究代表者

(1)テーマ研究　１課題
- 坪内逍遙・坪内士行の基礎的調査研究（濱口久仁子）

(2)公募研究　　４課題
- 楽譜資料の調査を中心とした無声期の映画館と音楽の研究（長木誠司）
- 演劇博物館所蔵の映画館資料に関する複合的カタロギング（上田学）
- 視覚文化史における幻燈の位置―明治・大正期における幻燈スライドと諸視覚文化のインターメディアルな影響関係にかんする研究（大久保遼）
- 中華民国期の伝統演劇資料から見る劇場と劇種に関する研究（鈴木直子）

特色ある共同研究拠点の整備の推進事業　機能強化支援

文部科学省の「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業　機能強化支援」を受けて昨年度より始まった本事業では、国内外の演劇・映像研究の発展に寄与すべく、海外の大学との連携と人材育成、および資料のデジタル化による研究環境の整備を進めており、具体的には以下の４つの事業を推進している。

■海外大学との連携と人材育成

海外の研究機関との連携により人材交流・若手育成を図る本事業では、昨年度に引き続き、バーミンガム大学付属のシェイクスピア研究所との協力関係を強化すべく、英国での蜷川幸雄追悼公演「NINAGAWA・マクベス」を機に、蜷川シェイクスピアを巡る講演会と国際シンポジウムを同地で開催した。さらに「伊藤道郎関連資料データベース」公開を記念し、国際シンポジウムを開催し、伊藤道郎の弟子・遺族・研究者を交えた多岐に渡る討議を行った。なお、本年度も全国から若手研究者を広く公募し、海外での研究発表を促進する「若手研究者海外派遣事業」を進め、１件の助成を行った。

■「くずし字OCR」を活用した総合的古典籍データベースの構築

「くずし字OCR」技術を利用して演劇関係の古典籍を巡る新たな研究環境の構築を目指している本事業では、本年度は閲覧可能な資料点数の拡充を図り、浄瑠璃丸本１件（「義経千本桜」）、顔見世・役割番付各６件のデータを新たに作成し、公開作業を進めた。また、歌舞伎学会をはじめとする学外の関連機関・団体にも本事業の成果を発信した。

■歌舞伎・人形浄瑠璃関係雑誌のデジタル・アーカイブの構築

演劇博物館所蔵の豊かな演劇雑誌のデジタル閲覧環境を準備し、資料保存と閲覧便宜の向上を図ることを目指している本事業は、昨年度に引き続き歌舞伎雑誌『新演藝』のデジタル公開用データの作成を進め、残る大正７年以後の公開作業を行った。

■演劇映像関連資料のデジタル化と共有化

演劇博物館の演劇映像資料のデジタル化を進める本事業では、本年度は伊藤道郎関連資料における12冊のスクラップブックの目録作成を行い、デジタル公開を進めた。また坪内逍遙・坪内士行関連、飯島正によるテレビ台本をデジタル化し公開した。

②平成29年度文化庁「美術館・歴史博物館重点分野 推進支援事業」「舞台芸術・芸能関係映像のデジタル保存・活用に関する調査研究事業」

事業の主旨

本事業の目的は、これまで十分な議論がなされてこなかった舞台芸術・芸能関係映像の保存と活用を促進する実践的な方法論を確立すると同時に、貴重な映像文化遺産を未来へと伝承していくことである。具体的には、本事業を通じて、舞台芸術・芸能関係の映像資料を所蔵する劇団・劇場・文化施設などとの人的ネットワークを構築しながら、映像資料のデジタル保存・活用に向けた指針を演劇博物館が主体となって提案することを目指している。演劇博物館は平成26年度から文化庁「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」に採択され「舞台芸術・芸能関係映像のデジタル保存・活用に関する調査研究事業」を行ってきたが、４年目となる今年度は、主に以下のような事業を行った。

■舞台芸術・芸能関係映像の媒体及び長期保存のモデルケース構築のための調査研究

舞台芸術・芸能関係映像の特性は記録メディアの多様性にある。演劇博物館は戦後を代表する日本舞踊家の武原はんに関連する映像資料を収蔵しているが、このコレクションにはVHSやベータといった一般的な記録媒体に加えて、16ミリフィルム、Uマチック、1／2インチオープンリールなど、現在では通常上映・再生が困難な稀少メディアも多数含まれている。こうした資料を舞台芸術・芸能関係映像資料のひとつのモデルケースとして捉え、映像媒体の特性および適切な保存方法を調査するとともに、文化的価値を明らかにするための内容調査（目録作成、題目および上演年代の特定）を行った。結果的に、今まで現存が確認されていなかった多数の映像が再発見され、大きな成果となった。今後は、著作権の問題を考慮しながら、上映会などを通じて映像公開の機会を模索したい。

■稀少映像の試験的デジタル復元（坪内逍遙コレクションを中心とした館蔵資料）

演劇博物館では、当館の設立者である坪内逍遙に関する映像を複数所蔵している。とりわけ、16ミリネガフィルムの「坪内逍遙博士葬送」（約2分、1935年）は、大学関係者のみならず、当時の文部大臣など各界の著名人も多数参列した極めて文化史的価値の高いものである。しかし、こうした映像は過去にアナログメディアに複製されているだけで、長期保存の観点からは決して適切な状態で保管されているとはいえない。劣化による映像価値の低下を防ぐためにも、本事業において試験的なデジタル復元を行い、フィルムの修復可能性および長期保存のためのデジタル化の意義を実証的に検証した。

2. 會津八一記念博物館

(1) 研究活動

①中国仏教美術史（特に唐代敦煌壁画の研究）
②中国書法史（漢代から唐代の石刻資料を中心に）
③狩野派、特に山下狩野派周辺の研究
④シルクロード考古学・仏教寺院研究・リモートセンシング・非破壊調査

(2) 教育活動

①レクチャールームで行う博物館実習への支援
②文学学術院、教育・総合科学学術院、理工学術院などの授業の補完
③修学旅行、課外学習など見学者の受け入れ
④エクステンションセンター受講生などの受け入れ

3. 大学史資料センター

(1) 研究活動

①科学研究費（研究成果公開促進費）：社会運動情報資源データ
②『早稲田大学百五十年史』編纂および百年史Wikiシステムの稼働
③大隈重信および関係者の実績の研究
④比較大学史研究：高等教育研究をはじめとする比較大学史
⑤大学行政文書の管理保存体制：大学アーカイブズ機能
⑥所蔵・寄贈資料の調査研究
⑦大学史セミナー

(2) 教育活動

①「早稲田学の基礎」、「早稲田学の探求」：グローバルエデュケーションセンター設置科目
②わせだライフABC

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

2017年度春季企画展
「テレビの見る夢―大テレビドラマ博覧会」

会期　5月13日(土) ～ 8月6日(日)
会場　演劇博物館　企画展示室
主催　演劇博物館
後援　文化庁
協賛　株式会社TBSテレビ、株式会社フジテレビジョン
協力　日本放送協会、日本テレビ放送網株式会社、株式会社テレビ朝日、株式会社テレビ東京、朝日放送株式会社、一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
助成　公益財団法人放送文化基金、公益財団法人 花王 芸術・科学財団、芸術文化振興基金助成事業

演劇博物館の春季企画展として開催された本展示は、テレビ草創期から現在までの幅広い年代を対象に、日本のテレビドラマ史全体を包括的に紹介する、博物館としてはおそらく日本初となる試みであった。台本やスチル写真などを中心として展示を構成しながら、多くの来場者に対して、テレビドラマという映像文化の豊かさと、学術研究の可能性を広く周知することができたという点において、大変意義深いものとなった。

●来場者数　28,135名*

展覧会関連講演会・シンポジウム

野木亜紀子×磯山晶トークショー
『木更津キャッツアイ』から『逃げ恥』まで

日時　5月19日(金)　18：30～
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館
登壇者　野木亜紀子（脚本家）、磯山晶（TBSプロデューサー）
司会　岡室美奈子（演劇博物館館長）

大ヒットした『逃げるは恥だが役に立つ』（TBS、2016年）の脚本家・野木亜紀子氏と、『木更津キャッツアイ』（TBS、2002年）など宮藤官九郎ドラマのプロデューサーとして知られる磯山晶氏の二人が登壇した。普段、表舞台に出ることの少ない人気脚本家とプロデューサーの二人が登場するとあって、定員数をはるかに超える応募が殺到し、学生をはじめとする若い人々を中心に、大変熱気に溢れたイベントとなった。

●来場者数　230名

＊来場者数は期間中の入館者数の合計

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会ギャラリートーク

ギャラリートーク

日時　6月14日(水)　15：00～
会場　演劇博物館2階　企画展示室
主催　演劇博物館
話し手　木原圭翔（演劇博物館助手）

本展示企画担当者の一人である木原圭翔（演劇博物館助手）が初期のテレビドラマ（1950～1970年代）を紹介した展示前半部分の解説を行なった。主に初期テレビドラマの特徴や演劇博物館が所蔵する貴重な資料（台本、スクラップブック、スチル写真）を説明し、とりわけ本展示の目玉であり数々の傑作ドラマを生みだしたNHKの名物ディレクターである「和田勉コーナー」に飾られた資料については、複数の参加者から質問があがるなど、盛況なギャラリートークとなった。

●来場者数　19名

展覧会関連講演会・シンポジウム

坂元裕二×是枝裕和トークショー
ドラマの神様は細部に宿る

日時　6月28日(水)　18：30～20：00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館
登壇者　坂元裕二（脚本家）、是枝裕和（映画監督）

脚本家の坂元裕二氏と映画監督の是枝裕和氏によるトークショー。何気ない日常会話や細やかな表現から心に響くドラマを立ち上げていく名手の二人に、台詞の作り方や創作活動などについて語っていただいた。当初、大隈記念講堂小講堂での開催を予定していたが、ホームページでの応募開始後まもなくして1,000人以上の申し込みが殺到し、急遽会場を大講堂に変更するなど、開演日前から両者の絶大な人気ぶりがうかがえる注目のイベントとなった。　●来場者数　1,185名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会ギャラリートーク

ギャラリートーク

日時　7月14日(金)　18：00～
会場　演劇博物館2階　企画展示室
主催　演劇博物館
話し手　岡室美奈子（演劇博物館館長）

本展示の監修者である岡室美奈子（演劇博物館館長）が、1980年代以降から現代に至るまでのテレビドラマを紹介した展示後半部分の解説を行なった。展示前半部分が客観的なテレビドラマ史であったのに対して、後半は監修者の独自の視点を全面に押し出しており、特に2011年の東日本大震災以降に生じたテレビドラマの変容についてなどが詳細に語られた。学生を中心に現代のテレビドラマに関心を持つ若い世代が多数参加し、盛況となった。　●来場者数　61名

展覧会関連講演会・シンポジウム

尾野真千子が語るテレビドラマ『カーネーション』を中心に

日時　7月21日(金)　18：30～20：00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館
登壇者　尾野真千子（俳優）、田中健二（NHKドラマ番組部シニアディレクター）
聞き手　岡室美奈子（演劇博物館館長）

NHK連続テレビ小説、通称「朝ドラ」最高傑作の呼び名も高い『カーネーション』について、主演の尾野真千子氏とチーフ演出を担当した田中健二氏が登壇した。撮影秘話や台本との向き合い方など、当時の貴重なエピソードの数々を披露してくれた。会場から笑いを誘う尾野氏の気さくで魅力的な人柄が前面に出た終始和やかなトークショーだったが、当日は尾野氏やテレビドラマのファンで満員となり、大盛況のイベントとなった。
●来場者数　1,049名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

早稲田大学芸術功労者顕彰記念　山田太一展

会期　5月13日(土)～8月6日(日)
会場　演劇博物館1階　特別展示室
主催　演劇博物館、文化推進部、演劇映像学連携研究拠点
協力　日本放送協会、株式会社TBSテレビ、株式会社フジテレビジョン、株式会社テレビ朝日、株式会社テレビ東京、一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

日本のテレビドラマ界を代表する脚本家・山田太一氏が早稲田大学芸術功労者として顕彰されたことを記念し、その多彩な活動を紹介する展示が開催された。映画会社松竹の助監督時代から、『岸辺のアルバム』『ふぞろいの林檎たち』といった名作、そして東日本大震災を題材とした近年の傑作『時は立ちどまらない』『五年目のひとり』に至るまで、その活躍の歩みを年代順にたどりながら、台本、写真、直筆原稿など、貴重な資料を多数展示した。　●来場者数　28,135名*

展覧会関連講演会・シンポジウム

山田太一展記念座談会
堀川とんこう×中村克史×長谷正人「山田太一ドラマの演出」

日時　7月12日(水)　18：30～
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館
登壇者　堀川とんこう（テレビ演出家）、中村克史（ディレクター・プロデューサー）
司会　長谷正人（文学学術院教授）

山田太一ドラマを手がけた名演出家の二人によるトークショー。一人は『男たちの旅路』『日本の面影』といった革新的なドラマを担当した中村克史氏。もう一人は、不朽の名作として知られる『岸辺のアルバム』の演出家兼プロデューサーであり、近年の山田作品も積極的に手がける堀川とんこう氏。制作秘話や山田脚本を映像化する際の特有の難しさなど、ドラマ制作に関する貴重な証言が司会の長谷正人氏（文学学術院教授）から多数引き出された。　●来場者数　152名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

講演会・シンポジウム

坪内博士記念演劇博物館

2017年度シェイクスピア祭演劇講座
「子供のためのシェイクスピア―今を生きる子供たちへ―」

日時　5月29日(月)　18：30～20：00
会場　6号館3階　318レクチャールーム
主催　演劇博物館、演劇映像学連携研究拠点
講師　山崎清介（子供のためのシェイクスピアカンパニー脚本・演出・俳優）

山崎氏には、子供のためのシェイクスピアシリーズの誕生の経緯やシェイクスピア作品の魅力についてご紹介いただいた。その中で、「子供のため」とはどういう意味かについて、子供には彼の作品を啓蒙としてではなく「娯楽として観て欲しい」。つまりただ楽しむだけではなく、子供がハラハラしたり、ドキドキしたりすることが大切だという解説をいただいた。ほかにも、翻訳や演技の工夫などについてお話しいただいた。

●来場者数　51名

展覧会

坪内博士記念演劇博物館

特別展「あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ」

会期　6月3日(土)～7月2日(日)
会場　新宿高野本店ビル6階　特設会場
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
後援　新宿区、一般社団法人新宿観光振興協会
協力　株式会社新宿高野、新宿区立新宿歴史博物館
企画協力　大塚聡（建築家・舞台美術）、宮沢章夫（劇作家・演出家・批評家）

2016年度に開催した特別展「あゝ新宿―スペクタクルとしての都市」展の好評を受け、新宿の文化に焦点をあてた特別展の第二弾を開催した。株式会社新宿高野のご協力により、新宿の中心地・新宿高野本店ビル6階に特設会場を設置。チラシやポスター、当時の街の様子を伝える写真やタウン誌を展示することで、演劇・映画・ジャズなど60・70年代の新宿に渦巻いていた文化的エネルギーを2017年の現在に再現した。

●来場者数　3,675名

展覧会関連講演会・シンポジウム

現在に生きるアングラ
麿赤兒×四谷シモン×桑原茂夫

日時　6月9日(金)　19：00～　　会場　新宿高野本店ビル6階　特設会場
登壇者　麿赤兒（大駱駝艦主宰・舞踏家・俳優）、四谷シモン（人形作家・俳優）
司会　桑原茂夫（詩人・アリス研究家）

舞踏集団・大駱駝艦主宰の舞踏家として国内外で活躍する麿赤兒氏と人形作家として世界的にも高い評価を受ける四谷シモン氏。かつて唐十郎氏の状況劇場でともに俳優として立ち、時代を切り裂いてきた二人に、彼らのよき理解者たる桑原茂夫氏を司会に迎え、70年代から現在に至る二人の活動を存分に語っていただいた。生々しく、ときにユーモラスに語られる当時の出来事に、今なお精力的に活動を展開する二人のルーツが見えるトークとなった。

●来場者数　82名

＊来場者数は期間中の入館者数の合計

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会関連講演会・シンポジウム

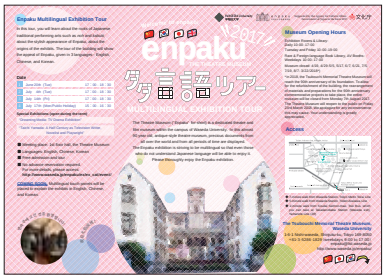
新宿ジャズ対談　山下洋輔×菊地成孔

日時　6月21日(水)　19：00〜
会場　新宿高野本店ビル6階　特設会場
登壇者　山下洋輔（ジャズピアニスト）、菊地成孔（音楽家・文筆家・音楽講師）

1960年代から半世紀にわたって国内外で演奏活動を展開してきた山下洋輔氏。山下氏を師匠と慕い、音楽のみならず幅広いジャンルで活躍する菊地成孔氏。新宿という街は二人のホームグラウンドのひとつでもある。トークはジャズ界におけるある種の事件としての山下洋輔トリオの出現にはじまり、ときにほかのジャンルにも話題を広げながら、新宿という街とジャズの魅力を縦横無尽に語り尽くすものとなった。

●来場者数　83名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館



enpaku多言語ツアー

日時　第1回　6月20日(火)　17：00〜18：30　＜英語＞
第2回　7月4日(火)　17：00〜19：00　＜英語＞＜中国語＞
第3回　7月11日(火)　14：45〜15：50　＜英語＞
第4回　7月12日(水)　11：00〜12：00　＜英語＞
第5回　7月14日(金)　17：00〜19：00　＜英語＞＜中国語＞
第6回　7月17日(月)　15：00〜16：00　＜韓国語＞
第7回　7月24日(月)　10：00〜11：30　＜韓国語＞
会場　演劇博物館
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

2回目となった「enpaku多言語ツアー」は、海外からの来館者や学内の留学生らに、演劇博物館の展示を英語・中国語・韓国語の3か国語で案内する催しである。館員によるガイドツアーは、展示品や文化への深い知識が喜ばれただけではなく、その場で気軽に質問や意見交換ができて、外国人来館者に日本の伝統芸能から現代に至る演劇・映像文化への理解と関心を高めてもらうよい機会となった。

●来場者数　80名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

第80回 逍遙祭「シェイクスピアの上演と翻訳」

日時　7月5日(水)　18：30〜20：00

会場　大隈記念講堂小講堂　　**主催**　演劇博物館

共催　角田柳作記念国際日本学研究所、スーパーグローバル大学創成事業「国際日本学拠点」、演劇映像学連携研究拠点

協力　松竹株式会社

お話し　シェイクスピアの上演と翻訳――歌舞伎女形として
中村京蔵（歌舞伎俳優）

聞き手　児玉竜一（演劇博物館副館長）

朗読劇　坪内逍遙訳「ヴェニスの商人」法廷の場 より
シャイロック……中村京蔵
アントーニオほか…江添皓三郎
ポーシャ……尾上右近

第１部では、故・蜷川幸雄氏の代表作のひとつである「NINAGAWA・マクベス」で、2015年の再演から魔女役を演じてこられた中村京蔵氏に、児玉竜一副館長が聞き手となり、歌舞伎俳優の女形としてこの舞台に関わってこられた経験談、小田島雄志氏の翻訳と坪内逍遙訳との違いを語っていただいた。

第２部では、坪内逍遙訳「ヴェニスの商人」法廷の場を、中村京蔵氏、尾上右近氏、江添皓三郎氏による朗読劇の形で上演。歌舞伎俳優と俳優との魅力的な顔合わせで演じていただいた。

●来場者数　215名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

親子で探険　エンパクツアー

日時　①7月31日(月)　10：00〜12：00
②8月2日(水)　10：00〜12：00

会場　演劇博物館

主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会

助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

講師　児玉竜一（演劇博物館副館長）

ガイド　双柿会展示解説員

エンパク初の子ども向け夏休み館内ツアー。演劇博物館に羊のコレクションがあるのはなぜ？どうして建物がこんな変わった形なの？文楽人形ってどうやって動かすの？―――館内のチェックポイントを回って謎の答えを探す探険イベント。能面をつけたり人形を作ったりする体験コーナーもあれば、「さがしてみよう」のコーナーも。まもなく90周年を迎える歴史ある演劇博物館の建物に子どもたちのにぎやかな声が響き渡った。

●来場者数　①79名　②130名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

エンパク★こども演劇教室2017
演じるってなんだろう?

会期　8月23日(水)～8月25日(金)　各日10：00～17：00
会場　早稲田大学構内、早稲田小劇場どらま館
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
講師　平田オリザ

夏休み中の小学校５年生から中学生３年生を対象に、自分で作品を作り、演じることを通じて演劇の楽しさに触れてもらうワークショップを開催した。講師は世界的に評価の高い劇作家・演出家でもある平田オリザ氏。子どもたちはグループごとに10分ほどの短い演劇作品を作り、最終日に早稲田小劇場どらま館の舞台で発表した。作品の完成度もさることながら、学校も学年も越えてともにワークショップを楽しむ子どもたちの姿が印象的だった。

●来場者数　27名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

蜷川シェイクスピアをめぐって

日時　10月６日(金)　14：00～15：45
会場　在英国日本国大使館
主催　演劇博物館、バーミンガム大学シェイクスピア研究所
共催　国際部、スーパーグローバル大学創成支援事業　国際日本学拠点、演劇映像学連携研究拠点、在英国日本国大使館、国際交流基金
登壇者　マイケル・ドブソン（シェイクスピア研究所所長）、マイケル・ビリントン（劇評家）、フィリップ・ブリーン（演出家）、ロザリンド・フィールディング（バーミンガム大学大学院）、柴田康太郎（演劇博物館研究助手）、中村京蔵（歌舞伎役者）、児玉竜一（演劇博物館副館長）
挨拶　鶴岡公二（駐英国特命全権大使）、高鳥まな（国際交流基金欧州総局長）、森田典正（国際担当理事）、ティム・ソフトリー（バーミンガム大学副学長）

昨年から続くバーミンガム大学シェイクスピア研究所との連携事業として英国で開催された国際シンポジウム。シェイクスピア研究を牽引するドブソン氏、英国の代表的劇評家ビリントン氏、気鋭の演出家ブリーン氏、若手研究者フィールディング氏が英国での蜷川受容を巡る討議を行うとともに、歌舞伎研究の児玉竜一氏と「NINAGAWA・マクベス」出演中の中村京蔵氏が蜷川演出における歌舞伎や女形の問題から現代演劇の継承の問題まで多角的な議論を行った。

●来場者数　103名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

催し物　坪内博士記念演劇博物館

劇団東京乾電池　別役実作
『小さな家と五人の紳士』

日時　10月9日(月・祝)　①16：30～　②19：00～
会場　演劇博物館2階　企画展示室
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
演出　柄本明
出演　①柄本明、鈴木千秋、池田智美、諫早幸作、嶋田健太、鹿野祥平、杉山恵一
②柄本明、鈴木千秋、西本竜樹、両角周、重田未来人、土居正明、前田亮輔

演劇博物館の展示室を舞台に1日限りのスペシャル公演を開催。映画・舞台・テレビにと幅広く活躍する俳優の柄本明氏と、柄本氏が座長を務める劇団東京乾電池によって、別役実作『小さな家と五人の紳士』が上演された。〈いま・ここ〉に〈いる・ある〉とはどういうことなのか。観客に強く問いかけるとともに、演劇にとって「どこで演じるのか」ということが、いかに本質的な問題であるのかを改めて認識させる、極めて魅力的な試みとなった。

●来場者数　①47名　②39名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

エンパクシネマ

日時　10月24日(火)　18：30～
会場　演劇博物館前舞台
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
出演　映楽四重奏　The Film Quartet
片岡一郎（活動写真弁士）、宮澤やすみ（三味線）、上屋安由美（ピアノ）、田中まさよし（太鼓）

演劇博物館初の試みとなる正面舞台を利用した野外上映会。秋も深まり、夜はやや冷え込む時期であったにもかかわらず、会場には立ち見も含めて約450名の人々が集まり、大盛況のイベントとなった。上映した作品は、演劇博物館が所蔵する貴重なフィルム『雷門大火 血染の纏』をはじめとして、いずれも1916年に製作された無声映画であり、ピアノ、三味線、太鼓による伴奏音楽と弁士による軽妙な語りが華やかな彩りを添えた。

●来場者数　448名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

日本演芸若手研精会 in 早稲田

日時　11月８日(水)　18：00～
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
協力　オフィスエムズ
出演　春風亭正太郎、春風亭昇々、桂宮治、入船亭小辰、柳家緑太

若手落語家の育成を目的とした「日本演芸若手研精会」のスピンオフ企画として、昨年度に引き続き「日本演芸若手研精会 in 早稲田」を開催した。当日の演者と演目は柳家小多け「道具屋」、柳家緑太「鷺とり」、入船亭小辰「夢の酒」、春風亭昇々「待ちわびて」、桂宮治「つる」、春風亭正太郎「子別れ」。３時間近くの熱気に満ちた落語会となった。学生をはじめとする若者も多く集まり、来場者からのアンケートには、継続しての開催を望む声が多数寄せられた。●来場者数　279名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

世界を駆け抜けた舞踊家　伊藤道郎―記憶・資料・研究―

日時　11月11日(土)　14：00～17：00
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、演劇映像学連携研究拠点
登壇者　柴田康太郎（演劇博物館研究助手）、伊藤慶子（Ito・M・Studio）、井村恭子（ミチオイトウ同門会）、ミッシェル・イトウ（Michio Ito Foundation）、武石みどり（東京音楽大学教授）、柳下惠美（文学学術院助教）、メリー・ジーン・コウウェル（セントルイス・ワシントン大学准教授）

演劇博物館デジタル・アーカイブ・コレクションでの伊藤道郎関連資料データベースの公開を記念した国際シンポジウム。戦前から戦後にかけて日本・欧州・米国で国際的に活躍した舞踊家の伊藤道郎を巡り、伊藤研究や関連資料の意義を、直弟子・遺族・研究者を交えて国際的かつ分野越境的な視野で検討した。各登壇者の発表は伊藤道郎の多岐にわたる創作活動を多角的な視点で照らし出し、伊藤道郎研究の今後の可能性を印象づけるものとなった。　●来場者数　102名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

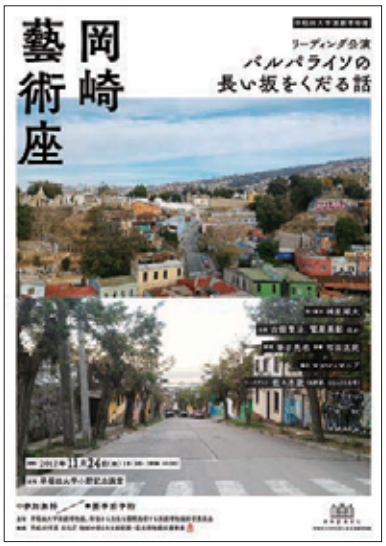
第４回 エンパク青空市

日時　11月23日(木・祝)　11：00～16：00
会場　演劇博物館１階　廊下
主催　演劇博物館

秋の恒例となりつつある「青空市」は、演劇博物館で日頃収集している資料の中から重複分を無料でお分けする催しである。歌舞伎・文楽・落語などの古典芸能から近現代演劇に至る和書、英・仏・独・中・韓国などの外国語書、映画や公演のポスター・チラシ・パンフレットなどを、雨の中行列して待ってくださった参加者に提供した。90周年に向けたリニューアル準備のため休館中の博物館内の廊下で行い、風情ある記念すべきイベントとなった。

●来場者数　511名

催し物　坪内博士記念演劇博物館



岡崎藝術座リーディング公演
『バルパライソの長い坂をくだる話』

日時　11月24日(金)　18：30～
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
協力　マッシュマニア
作・演出　神里雄大
出演　古舘寛治、鷲尾英彰、大村わたる（柿喰う客）
照明　筆谷亮也
音響　和田匡史
トークゲスト　佐々木敦（批評家、HEADZ主宰）

３年連続でフェスティバル／トーキョーに参加するなど、国際的な舞台芸術祭で次々と作品を発表し、国内外で注目を集める岡崎藝術座。『バルパライソの長い坂をくだる話』は京都のみで上演された作品で、今回のリーディング公演は関東圏で同作に触れる貴重な機会となった。同作はその後、演劇界の芥川賞とも呼ばれる岸田國士戯曲賞を受賞。４月には作者である神里雄大氏のほかの戯曲を合わせて収録した戯曲集が出版される予定となっている。

●来場者数　158名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

催し物 ―― 坪内博士記念演劇博物館

出張体験教室〈常磐津〉

日時　11月29日(水)　12：55〜14：40
会場　東京都立江東特別支援学校
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
講師　常磐津和英太夫（太夫）、常磐津菊与志郎（三味線方）

障がいをもった子どもたちを主な対象として、都内の特別支援学校や能楽堂に出向いて行うenpaku出張ワークショップシリーズ９年目。常磐津（歌舞伎音楽）ワークショップでは、今年は曲に合わせて紙の雪を降らせる、蜘蛛の巣テープを投げるといった歌舞伎の演出を取り入れ、そのたびに生徒たちから歓声が上がった。耳で聞くだけでなく、目で楽しめる演出も加わったことで、歌舞伎の世界をより深く、身近に理解してもらうことができた。

●来場者数　102名

出張体験教室〈狂言〉

日時　①12月５日(火)　11：00〜11：45
②12月20日(水)　11：35〜14：10
③12月21日(木)　14：00〜15：30
④2018年１月11日(木)　10：35〜11：25
会場　①東京都立光明学園そよ風分教室
②東京都立田園調布特別支援学校
③矢来能楽堂（新宿区立牛込第三中学校）
④東京都立八王子特別支援学校
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
講師　善竹十郎、善竹大二郎（能狂言方）

障がいをもった子どもたちを主な対象として、都内の特別支援学校や能楽堂に出向いて行うenpaku出張ワークショップシリーズ９年目。狂言ワークショップでは「柿山伏」の舞台を鑑賞し、狂言の構えや発声を体験してもらった。難しいと思われがちな伝統芸能だが、山伏が動物の鳴き真似をするシーンでは子どもたちの笑い声が響き、何百年の時を超えて受け継がれる本物の芸の魅力がしっかり伝わった様子だった。

●来場者数　①20名　②140名
③204名　④77名

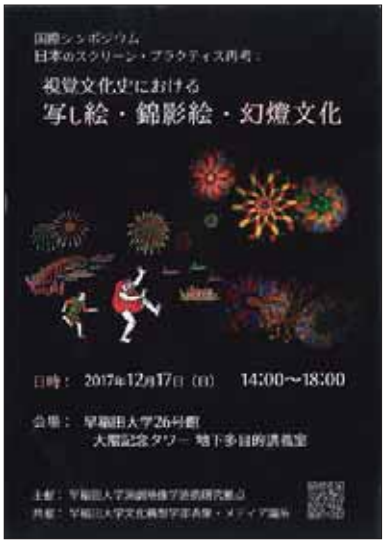
講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

早稲田大学演劇博物館・文学座共催シンポジウム
「日本物（和物）の芝居の継承とこれからの文学座 ―百周年に向けて―」

日時　12月６日(水)　15：00～16：30
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
共催　文学座
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
登壇者　新橋耐子（文学座俳優）、山本郁子（文学座俳優）、大笹吉雄（演劇評論家）
司会　児玉竜一（演劇博物館副館長）

2017年に創立80周年を迎えた文学座は、日本を代表する劇団として演劇界をリードしてきた。日本物（和物）を巡る本シンポジウムには、演劇評論家の大笹吉雄氏とともに、文学座から俳優の新橋耐子氏と山本郁子氏の二人が登壇した。生活習慣が大きく変わった現代において、和物を継承していくことの難しさが増していく中、これまでの80年、そしてこれからの100周年へと向けて、文学座の歴史と未来を考察する大変充実したシンポジウムとなった。　●来場者数　174名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館



日本のスクリーン・プラクティス再考：視覚文化史における写し絵・錦影絵・幻燈文化

日時　12月17日(日)　14：00～18：00
会場　26号館（大隈記念タワー）地下　多目的講義室
主催　演劇博物館、演劇映像学連携研究拠点
共催　文化構想学部表象・メディア論系
登壇者　大久保遼（愛知大学特任助教）、上田学（神戸学院大学准教授）、遠藤みゆき（東京都写真美術館）、向後恵里子（明星大学准教授）、草原真知子（文学学術院教授）、エルキ・フータモ（UCLA教授）、山形文雄（劇団みんわ座代表）、池田光恵（大阪芸術大学教授）

「スクリーン・プラクティス」の視点から多様な日本の映像文化を議論するシンポジウム。実際に写し絵と錦影絵の復元上映を行いながら、写し絵、錦影絵、幻燈文化を巡る最新の研究動向の発表と、現在のメディア横断的な状況にも通じる幻燈文化の討議がなされた。西欧と比較した写し絵、錦影絵の特徴からスクリーン学やメディア考古学の可能性まで多岐にわたる話題が議論され、来場者とも活発な質疑応答が行われた。

●来場者数　83名

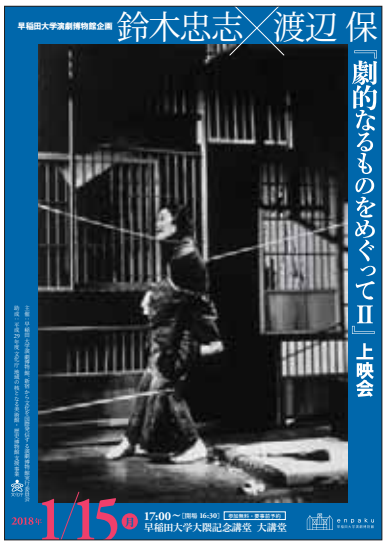
講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

無声期の映画館における和洋合奏：楽譜資料「ヒラノ・コレクション」とSPレコード

日時　2018年１月13日(土)　13：30〜17：30
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、演劇映像学連携研究拠点
登壇者　柴田康太郎（演劇博物館研究助手）、白井史人（日本学術振興会特別研究員PD）、紙屋牧子（東京国立近代美術館フィルムセンター特定研究員）、片岡一郎（活動写真弁士）、堅田喜三代（邦楽演奏家）、アーロン・ジェロー（イエール大学教授）
出演　片岡一郎（弁士）、湯浅ジョウイチ（指揮）、鈴木真紀子（フルート）、古橋ユキ（ヴァイオリン）、川上統（チェロ）、丹原要（ピアノ）、宮沢やすみ（三味線）、堅田喜三代（鳴物）

無声期の時代劇の音楽として知られる和洋合奏の音楽を多角的に検討するシンポジウム。演劇博物館蔵の貴重な楽譜資料ヒラノ・コレクションをSPレコードの分析や邦楽演奏家の知見を交えて考察するとともに、無声期の映画館における音楽文化の多面的な議論がなされた。また、演劇博物館蔵、個人蔵、フィルムセンター蔵のフィルムを併せた『忠次旅日記』の参考上映を行い、三味線、鳴物入りの和洋合奏でヒラノ・コレクションの楽譜を演奏した。　●来場者数　138名

催し物　坪内博士記念演劇博物館



鈴木忠志×渡辺保 ―『劇的なるものをめぐってII』上映会

日時　2018年１月15日(月)　17：00〜20：00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
登壇者　鈴木忠志（演出家・劇団SCOT主宰）、渡辺保（演劇評論家）

1960年代以降の日本演劇で最も重要な作品のひとつと目される早稲田小劇場『劇的なるものをめぐってII』(1970年)。稽古時のものとはいえ、同作の映像が披露されたのは今回が初めてのことであり、歴史的ともいえる上映会には多くの観客が訪れた。同作の構成者にして演出家である鈴木忠志氏と、同作を初演当時から高く評価してきた演劇評論家の渡辺保氏との対談は、半世紀を経て今なおアクチュアルな作品の今日的意義を検討する刺激的なものとなった。

●来場者数　797名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

『演劇クエスト』をつくってみるワークショップ

会期　2018年1月27日(土)～28日(日)　各日13：00～17：00
会場　早稲田大学構内および周辺
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
講師　藤原ちから（BricolaQ主宰）

「冒険の書」と呼ばれるガイドブックに記された選択肢を手がかりに、参加者自身がロールプレイングゲームの主人公のように広範なフィールド内を自由に移動する遊歩型ツアープロジェクト「演劇クエスト」。今回のワークショップでは早稲田大学とその周辺にフィールドワークに出かけ、そこで得た情報の再編集＝物語化を試みた。参加者の発表からは、複数の異なる視点から見られた街のさまざまな姿が浮かび上がって見えた。

●来場者数　14名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

国際シンポジウム

「不可能への挑戦　形のないアートを保存する ―博物館におけるパフォーミングアーツとメディアアーツのアーカイブと展示を巡って―」

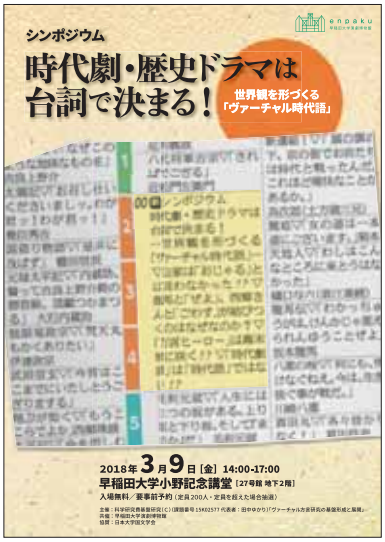
日時　2018年2月22日(木)　17：30～19：30
会場　国際会議場　第一会議室
主催　演劇博物館、新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会
助成　平成29年度　文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
協力　テキサス大学オースティン校ハリーランサムセンター、ヴィクトリア＆アルバート博物館、NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］
司会　岡室美奈子（演劇博物館館長）
登壇者　エリック・コリアリー（テキサス大学オースティン校ハリーランサムセンター演劇＆パフォーミングアーツ・キュレーター）、ラモーナ・ルイジェフスキ（ヴィクトリア＆アルバート博物館演劇・パフォーマンス部門収蔵品管理部長）、畠中実（ICC主任学芸員）、土屋紳一（演劇博物館デジタル・アーキビスト）

登壇者には、各博物館が所蔵する貴重なパフォーミングアーツなどの資料をご紹介いただくとともに、それらの資料の保存とアーカイブ、さらには展示の方法についてご説明いただいた。パフォーマンスそのものは保存が困難なため、資料の収集においては「ドーナッツ型の収集」が有効であることや、実は正確で確実と思われるデジタル資料は不確かであること、さらにはデータベースのクリッピング機能を活用しての市民参加の可能性に関する議論が交わされた。

●来場者数　96名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館



時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる！
―世界観を形づくる『ヴァーチャル時代語』

日時　2018年３月９日(金)　14：00～17：00
会場　小野記念講堂
主催　科学研究費基盤研究Ｃ（課題番号 15K02577 代表者：田中ゆかり）
共催　演劇博物館
登壇者　金水敏（大阪大学文学研究科教授）、児玉竜一（演劇博物館副館長）、田中ゆかり（日本大学文理学部教授）、大森洋平（NHKドラマ部）、吉川邦夫（NHKエンタープライズ制作本部）

本シンポジウムでは、テレビドラマ史上もっとも長い時代劇・歴史ドラマシリーズであるNHK「大河ドラマ」を中心に、時代劇・歴史ドラマの台詞を言語・文化研究の立場から捉えなおした。第１部では各研究者が役割語研究、ヴァーチャル方言研究、歌舞伎研究といったそれぞれの専門分野から分析を行い、第２部ではテレビドラマ制作者サイドの方が加わり座談会を行った。　●来場者数　154名

展覧会　會津八一記念博物館

茶の道具

会期　３月１日(水)～４月28日(金)
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

富岡重憲氏は「茶を喫するためには、茶碗と茶筅があればよい」と言ったといわれている。そのためか唐物、和物そして高麗茶碗は計50碗余を数える。この茶碗の数々と、釜、茶入、茶杓、花生、床を飾る軸物などの茶の道具を展示した。
●来場者数　3,354名

展覧会ギャラリートーク

ギャラリートーク

日時　①７月22日(土)　13：00～13：30
②10月14日(土)　13：00～13：30
③12月16日(土)　13：00～13：30
④2018年３月３日(土)　13：00～13：30
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

富岡重憲コレクションの概要について、および当該展覧会の展示内容と見どころを解説した。　●来場者数　計75名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会　會津八一記念博物館

富田万里子コレクション長崎版画展

会期　5月10日(水)～6月17日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館

朱葉会会員の画家である富田万里子氏より受贈したオランダ関係資料のうち、長崎版画を展示した。長崎版画は錦絵（浮世絵）とは異なる技法を用いて、18世紀半ばから明治時代まで長崎で制作・販売された版画である。長崎は江戸時代、数少ない海外交易港であり、オランダ、中国との交易で栄えた。そのため、長崎版画の画題はオランダ船や唐船、オランダ人、中国人など異国情趣を感じさせるものが多く、旅人向けに長崎土産として販売されていた。　●来場者数　3,229名

展覧会　會津八一記念博物館

武者小路実篤の書画

会期　5月16日(火)～6月24日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

白樺派の小説家として知られる武者小路実篤は、晩年に身の回りにある季節それぞれの野菜や花々の絵を描いている。絵画作品を中心に、書を添えて展示した。

●来場者数　2,427名

展覧会　會津八一記念博物館

パリから学んだ画家たち―岡鹿之助から嶋田しづまで

会期　6月29日(木)～8月6日(日)
会場　會津八一記念博物館1階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館

明治時代から現代に至るまで日本の画家たちはパリから多くを学んできたが、本展では早稲田大学が所蔵するコレクションの中にその一端を見出した。

●来場者数　6,871名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会　會津八一記念博物館

やきものに見る吉祥

会期　7月6日(木)～9月22日(金)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

有田、九谷、唐津などの日本のやきものを中心に、中国や朝鮮半島の陶磁器も合わせ、吉祥をあらわす図柄や形の作品を展示した。　●来場者数　3,467名

展覧会　會津八一記念博物館

禅書画のたのしみ

会期　10月5日(木)～11月25日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

臨済宗の古月禅材や白隠慧鶴、曹洞宗の月舟宗胡や面山瑞方、黄檗宗の隠元隆琦とその弟子木庵性瑫など、日本に伝わる3つの禅宗の書画を取り混ぜて展示した。
●来場者数　3,931名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会　會津八一記念博物館

アフリカ横断一万粁（キロ）
—関根吉郎とアフリカ・マヤ資料コレクション—

会期　10月12日（木）～11月18日（土）
会場　會津八一記念博物館１階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館
共催　人間科学学術院

関根コレクションは、本学山岳部監督、探検部部長であった故・関根吉郎名誉教授から寄贈された、アフリカの民族資料やマヤの拓本資料から構成される。関根は、研究の傍ら遠征隊を組織したびたび調査を行った。1958年には赤道アフリカを横断し、民族について調査を実施した。さらに1961年には中米・マヤの遺跡を訪れ、パレンケ遺跡の神殿の拓本を取るなど、精力的な活動の中で貴重な資料を収集した。継続的な調査により明らかになった資料の全貌について、企画展示として公開した。

●来場者数　4,260名

展覧会関連催し物

「赤道直下一万粁（キロ）アフリカ横断」全編上映会

日時　11月11日（土）　①10：30～12：30　②14：30～16：30
　　11月18日（土）　①10：30～12：30　②14：30～16：30
会場　會津八一記念博物館１階　企画展示室（※上映はレクチャールーム）
主催　會津八一記念博物館
講師　ナワビ アハマッド 矢麻（會津八一記念博物館助手）

関根吉郎が実施したアフリカ遠征には日本映画新社のカメラマンが同行していた。彼らによって撮影された映像は、日本にアフリカを紹介するドキュメンタリー映画「赤道直下一万粁 アフリカ横断」として公開された。遠征隊の記録とともに、当時のアフリカの様子を動画で収めた本映画も資料の来歴を語る上で重要である。

1958年のアフリカの民族・自然をカラー映像で記録したという点で、本映像の資料的価値は高く、広く視聴される機会が望まれていたため、全編上映会を実施した。

●来場者数　計27名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

講演会・シンポジウム　　會津八一記念博物館

早稲田大学所蔵資料に見る日蘭関係史研究の今後 ―洋学文庫、富田万里子コレクションを通して―

日時　10月21日(土)　13：00～16：00
会場　小野記念講堂
主催　會津八一記念博物館

早稲田大学は江戸時代の日蘭関係についての重要かつ貴重な資料である洋学文庫（図書館蔵）、富田万里子コレクション（會津八一記念博物館蔵）がある。これらをとおして日蘭関係史研究の伸展について検討した。

●来場者数　40名

展覧会　　會津八一記念博物館

狩谷棭斎墓碑受贈記念 狩谷棭斎 ―学業とその人―

会期　2017年11月28日(火) ～2018年１月20日(土)
会場　會津八一記念博物館１階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館

2012年に曹洞宗法福寺ご住職和田一岡師のご厚意により、当館に狩谷棭斎墓碑が寄贈された。本展覧会では、室内でじっくりと見る機会の少ない原石そのものの展示をひとつの目玉とする。この碑は棭斎の盟友であった松崎慊堂が撰文し、江戸の名書家小島成斎が筆をとり、著名な石工である広群鶴が刻んだもので、当時の優れた文章、書法、刻字技術の粋が結晶した文物ともいえる。この碑文に導かれつつ棭斎の生涯をたどってみたい。

●来場者数　3,213名

展覧会ギャラリートーク

ギャラリートーク

日時　2018年１月６日(土)、１月13日(土)、１月15日(月)～20日(土)
　　各日13：30～14：00、20日のみ11：00～11：30にも実施
会場　會津八一記念博物館１階　企画展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　徳泉さち（會津八一記念博物館助手）

「狩谷棭斎墓碑受贈記念 狩谷棭斎 ―学業とその人―」のギャラリートークを開催。

●来場者数　計85名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展示会 ——— 會津八一記念博物館

みほとけの形

会期　2017年12月７日(木) ～2018年１月31日(水)
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

志賀直哉旧蔵の木造菩薩立像をはじめ、ガンダーラの石造如来坐像、中国南北朝時代の石仏と金銅仏、日本の法華経絵、白描図像など、仏教美術の彫刻と絵画を展示した。

●来場者数　2,433名

展覧会 ——— 會津八一記念博物館

直良信夫展 ～再発見された遺産は語る～

会期　2018年２月26日(月) ～３月26日(月)
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　直良信夫展実行委員会
共催　會津八一記念博物館
協力　本庄キャンパス考古資料館、高等研究所、国立歴史民俗博物館ほか

本学理工学部教授であった直良信夫は、明石原人などの考古学的発見によりその名前をつとに知られている。早稲田大学には直良が収集した考古・古生物コレクションの一部が収蔵されているが、そのコレクションの中には未公開、未研究の資料も数多く含まれており、戦時中の空襲で焼失したと思われていた化石資料も再発見された。この企画展では、考古学的および古生物学的観点から、直良信夫が手がけた学問の世界と本学における研究活動の記録を紹介した。

●来場者数　527名

展覧会関連講演会・シンポジウム

トップ・ランナーズ・セミナー
直良信夫化石コレクションの再発見

日時　2018年３月11日(日)
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　高等研究所
登壇者　平山廉（国際学術院教授）、春成秀爾（国立歴史民俗博物館名誉教授）、馬場悠男（国立科学博物館名誉研究員）、長谷川善和（群馬県立自然史博物館名誉館長）、守屋和佳（教育・総合科学学術院准教授）、西岡佑一郎（高等研究所助教）、塚原史（會津八一記念博物館館長）

このセミナーは2018年２月26日～３月26日「直良信夫展 ～再発見された遺産は語る～」（直良信夫展実行委員会主催・會津八一記念博物館共催）の関連シンポジウムとして開催された。

●来場者数　49名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会ギャラリートーク

研究者によるサイエンストーク

日時　①2018年3月3日(土)　②3月10日(土)
③3月17日(土)　④3月24日(土)　各回13：00～15：00
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　直良信夫展実行委員会
共催　會津八一記念博物館
講師　①宮田真也（城西大学）、②④西岡佑一郎（高等研究所助教）、③平山廉（国際学術院教授）

このサイエンストークは2018年2月26日～3月26日「直良信夫展 ～再発見された遺産は語る～」（直良信夫展実行委員会主催・會津八一記念博物館共催）の関連イベントとして開催された。

●来場者数　①6名　②9名　③5名　④7名　合計27名

講演会・シンポジウム　大学史資料センター

「新しくみえてきた早稲田の歴史 ―『百五十年史』編纂過程の成果と課題―」

日時　10月9日(月)　14：45～17：00
会場　小野記念講堂
主催　百五十年史編纂委員会、大学史資料センター
報告者　湯川次義（教育・総合科学学術院教授）、木下恵太（大学史資料センター非常勤嘱託職員）
コメンテーター　寺崎昌男（東京大学・立教大学・桜美林大学名誉教授）

現在、創立150周年に向けて『早稲田大学百五十年史』の編纂が進められている。本シンポジウムでは、新たな編纂方針や編纂の過程で分かった新事実を紹介しながら、『百五十年史』編纂の意義や今後の展望について議論をした。

湯川次義氏の「『早稲田大学百五十年史』の概要とそこに求められるもの」、木下恵太氏の「『早稲田大学百五十年史』と市島謙吉の筆記資料」の2つの報告と、寺崎昌男氏のコメント「よりよき150年史のために」で構成された。

●来場者数　118名

展覧会　文化企画課

パプアニューギニアとの出会い ～早稲田大学収蔵コレクション～

会期　3月22日(水)～4月25日(火)
会場　26号館（大隈記念タワー）10階　125記念室
主催　文化推進部文化企画課
協力　早稲田大学考古学研究室、會津八一記念博物館、㈲PNGジャパン

2010年に埼玉県鶴ヶ島市より本学へと寄贈された、「オセアニア民族造形美術品」に関する展覧会。この資料群は新潟県石打村（現南魚沼市）出身の故・今泉隆平氏が収集したものである。1,000点以上にもおよぶ国内有数の所蔵規模を誇る所蔵品の中から貴重な資料を展示するほか、本学考古学研究室が2002年より継続して行っているパプアニューギニア現地調査についても紹介した。

●来場者数　1,553名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

展覧会関連講演会・シンポジウム

「パプアニューギニアとの出会い ～早稲田大学収蔵コレクション～」開催記念講演会

日時　4月17日(月)　16：30～18：00
会場　3号館302教室
主催　文化推進部文化企画課
講師　高橋龍三郎（文学学術院教授）

「パプアニューギニアとの出会い ～早稲田大学収蔵コレクション～」開催を記念して行われた講演会。本学が所蔵する貴重な資料とともに、早稲田大学考古学研究室によるパプアニューギニアの現地調査活動について、高橋龍三郎教授が紹介した。

●来場者数　約250名

催し物　文化企画課

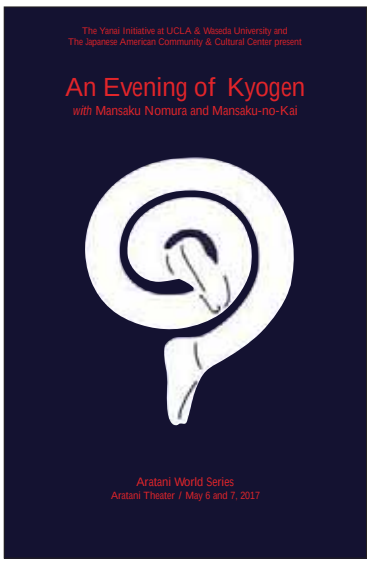
第８回　早稲田狂言の夕べ

日時　4月18日(火)　17：30～19：00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　文化推進部、総長室
協力　早稲田大学校友会
協賛　リーガロイヤルホテル東京
講師　野村万作、野村萬斎、石田幸雄ほか

2010年に早稲田大学校友会設立125周年を記念して開催が始まり、2017年度で８回目の開催である。学内の学生・教職員をはじめ、招待校友やサポーターズ倶楽部の会員を対象としている。早稲田大学芸術功労者であり、人間国宝である野村万作氏、推薦校友の野村萬斎氏らが出演。大隈記念講堂でしか観られない一味違った舞台は、毎回大好評を博している。

●来場者数　819名

催し物　文化企画課



AN EVENING OF KYOGEN with Mansaku Nomura and Mansaku-no-Kai

会期　5月６日(土)～７日(日)　18：15～19：50（現地時間）
会場　ARATANI Theatre, Japanese American Cultural & Community Center（JACCC）
主催　柳井イニシアティブ、早稲田大学、University of California, Los Angeles（UCLA）
協力　ANA、SACRED MUSIC、文化庁
講師　野村万作、野村萬斎、石田幸雄ほか

柳井イニシアティブのプロジェクトの一環として、ARATANI Theatreを会場に開催された「早稲田狂言の夕べ」のロサンゼルス版狂言公演である。５月６日・７日の２回の本公演に加え、早稲田大学、UCLAの共同による国際日本学研究の活動として、現地の小学生やUCLAの学生、一般に向けてのシンポジウム並びに狂言講座が行われた。本公演では「梟山伏」、「川上」、「棒縛」の演目が披露され、会場から大歓声が沸き起こった。

●来場者数　1,500名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

催し物　　文化企画課

Museum Week 2017

会期　5月22日(月)～6月2日(金)
会場　演劇博物館、會津博物館ほか
主催　文化推進部
協力　早稲田大学生活協同組合、早稲田大学周辺商店連合会
後援　新宿区

キャンパス内の各文化施設が収蔵する文化・情報資源を利用・活用する意義を体感してもらう契機としていただくため、2015年度よりスタートした企画。ミュージアムを楽しく巡っていただくため、見どころ満載の展示はもちろん、ミュージアムワードパズル、フォトスポットラリー、無料似顔絵体験、ミュージアムを舞台にした本学学生によるパフォーマンスなど、どなたでも楽しめる企画を実施。

●来場者数　4,358名

催し物　　文化企画課

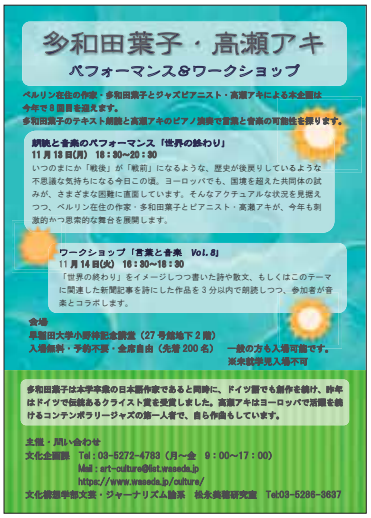
伊藤比呂美 特別講演＆人生相談
第１部　講演「アメリカと私、「日系」人としての私」
第２部　人生相談「人生相談ライブ!万事OK」

日時　8月3日(木)　16：00～17：30
会場　戸山キャンパス36号館　681教室
主催　スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点、角田柳作記念国際日本学研究所、文化推進部文化企画課、文化構想学部文芸・ジャーナリズム論系
講師　伊藤比呂美（詩人・作家）

国際的な詩人であり早稲田大学坪内逍遙大賞受賞者の伊藤比呂美氏に、異文化・異言語の中での創作活動や人生経験を披露いただくとともに、来場者からの人生相談に直接答えていただくイベント。第１部の講演では40代でアメリカに移住して以来の苦労や日系人の悲哀を語った。英語・日本語両バージョンによる詩の朗読を挟み、第２部の人生相談では温かくユーモアを交えながら、また時折自身のエピソードを紹介しながら回答した。

●来場者数　150名

催し物　文化企画課



多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ

日時　パフォーマンス「世界の終わり」11月13日(月)　18：30〜20：30
ワークショップ「言葉と音楽　Vol.8」11月14日(火)　16：30〜18：30

会場　小野記念講堂

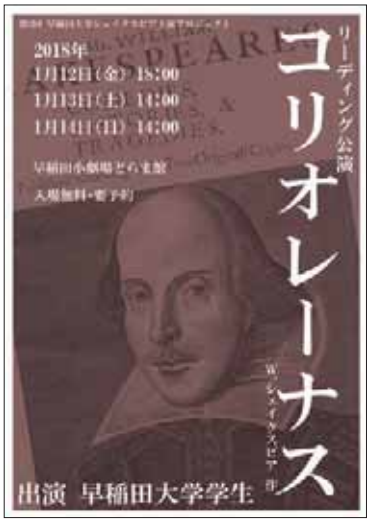
主催　文化推進部、文化構想学部文芸・ジャーナリズム論系

出演　多和田葉子（作家）、高瀬アキ（ジャズピアニスト）

ベルリン在住の作家・多和田葉子氏のテキスト朗読と、ジャズピアニスト・高瀬アキ氏の即興ピアノによる、言葉と音楽のコラボレーションの可能性を探るパフォーマンス＆ワークショップ。今回で８年連続８回目である。１日目は多和田氏・高瀬氏による「世界の終わり」をモチーフにしたパフォーマンス。２日目は参加者が「世界の終わり」をイメージしつつ書いた作品を３分以内で朗読しつつ、音楽とコラボレーションした。

●来場者数　176名

催し物　文化企画課



第２回　早稲田大学シェイクスピア上演プロジェクト リーディング公演『コリオレーナス』

日時　2018年１月12日(金)　18：00〜19：30
2018年１月13日(土)　14：00〜15：30
2018年１月14日(日)　14：00〜15：30

会場　早稲田小劇場どらま館

主催　国際教養学部

演出　西川信廣

照明　岩城茉莉恵

舞台監督　進藤忠

協力　文学座

音楽　上田亨

音響効果　中嶋直勝

出演　早稲田大学学生

2016年度にシェイクスピア没後400年記念事業として開催した、早大生による第１回シェイクスピア・リーディング公演『ヴェニスの商人』に引き続いての企画。2017年度は第２回公演として政治的な陰謀と復讐に彩られた共和制ローマを題材とする歴史劇『コリオレーナス』を上演。シェイクスピアの戯曲を、テキストを持ったまま上演するリーディング公演は、坪内逍遙らによる文学科創設以来、常にシェイクスピア研究の拠点である本学での新たな研究の実践の形となっている。

●来場者数　210名

文化事業
2017年度　展覧会・催し物

催し物

文化企画課

世界ハンセン病デー特別企画
「朗読劇『あん』と映画『あん』」

日時　2018年1月28日(日)　14：30～19：00　　会場　大隈記念講堂

主催　オンザフィールド

協力　あんのまち東村山実行委員会、エレファントハウス、東京都人権啓発センター、日本財団、ハンセン病問題支援学生NGO橋ーQuio、ポニーキャニオン、ポプラ社、文化推進部、平山郁夫記念ボランティアセンター

出演　原田燎太郎（NPO家ーJIAー事務局長）、ドリアン助川（作家・ミュージシャン）、中井貴惠（女優・エッセイスト）、ピクルス田村（ギタリスト）

ハンセン病に対しての社会からの偏見をテーマにした、本学校友のドリアン助川氏原作の小説「あん」から発展した朗読劇と映画を一挙に上演。３年度連続で開催してきた本学での「あん」企画のフィナーレとなった。朗読劇と映画の前には、中国のハンセン病隔離村で支援活動を行ってきた原田燎太郎氏とドリアン助川氏の対談を開催したほか、ロビーでは日本財団フォトグラファー富永夏子写真展「ハンセン病を考えることは、人間を考えること。」も実施した。

●来場者数　600名

展覧会

文化企画課

美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 10周年記念共催展
「絵を通して見る坪内逍遙」

会期　2018年２月10日(土)～３月11日(日)

会場　美濃加茂市民ミュージアム　企画展示室

主催　美濃加茂市民ミュージアム、文化推進部

日本近代文学の先駆者であり、演劇文化の振興や教育、研究など幅広い分野で功績を残した坪内逍遙。数々の偉業を讃えられる逍遙の多彩な仕事や生活の折々には、いつも絵があった。逍遙が描いた絵や蒐集品をとおして、彼が美を見いだし、追い求めた世界観を眺めることがこの展覧会の目的である。早稲田大学と美濃加茂市の文化交流事業10周年の記念展として、坪内逍遙に関する資料を多数収蔵する演劇博物館と早稲田大学図書館、會津博物館、そして美濃加茂市民ミュージアムの所蔵品を展覧した。

●来場者数　570名

文化事業

第8回　早稲田学生文化・芸術祭

会場・日時 大隈記念講堂：６月10日(土)～15日(木)
早稲田小劇場どらま館：６月11日(日)
ワセダギャラリー：６月５日(月)～６月９日(金)、６月20日(火)～６月24日(土)
27号館１階ショーウィンドウ：６月10日(土)～６月16日(金)、
６月20日(火)～６月24日(土)

早稲田学生文化・芸術祭は、「学生団体の発表機会を増やし、早稲田の学生文化・芸術を発信・創造すること」を目的に、2010年より実施されている。文化推進部・学生部のサポートのもと、公認サークルの学生が主体となって公演や作品展示を行う。秋の「早稲田祭」に並ぶ、春の一大イベントへの成長を目指している。

第８回にあたる2017年度は全27団体が参加し、大隈記念講堂・早稲田小劇場どらま館・ワセダギャラリー・27号館１階ショーウィンドウの４会場で、パフォーマンス・ダンス・楽器演奏・作品展示などさまざまな分野の企画を実施した。来場者は約5,000名にもおよび、充実したフェスティバルとなった。

大隈記念講堂

形態	日程	公演時間	出演団体
オムニバス公演	６月10日(土)	11：00～12：00	エレクトーンサークル AUGMENT
		13：00～13：30	ハイソサエティ・オーケストラ
		14：00～14：45	早稲田大学ニューオルリンズジャズクラブ
		15：15～16：00	オルケスタ・デ・タンゴ・ワセダ
		16：30～17：30	津軽三味線愛好会 三津巴× SARAHbelly
		17：45～18：05	和太鼓サークル 魁響
		18：15～18：50	早稲田大学よさこいチーム東京花火
		19：00～19：30	日本舞踊研究会
	６月11日(日)	11：00～11：30	TAP-LOVERS
		11：40～12：30	下駄っぱーず×バンカライズムー万色主義ー
		13：30～13：50	千葉学生稲門会
		14：00～14：20	Waseda Salsa Party
		14：30～14：55	Waseda Collection
		15：05～15：55	ハワイ民族舞踊研究会
		16：05～16：35	WASEDA BALLERS
		16：45～17：15	早稲田大学ジャグリングサークル～infinity～
		17：30～18：00	早稲田大学ジャズダンスサークル Oasis
		18：10～18：25	SHOCKERS
単独公演	６月12日(月)	18：15～20：00	Waseda International Festival（W.I.F）
	６月13日(火)	18：30～20：00	お笑い工房 LUDO
	６月14日(水)	18：00～19：30	Choco Crunch × Street Corner Symphony
	６月15日(木)	14：00～15：30	早稲田大学交響楽団

早稲田小劇場どらま館・ワセダギャラリー・27号館１階ショーウィンドウ

会場	日程	公演時間	公演名・主催団体など
早稲田小劇場どらま館	６月11日(日)	10：00～22：00	どらま館　俳優ワークショップ　ショーイング
ワセダギャラリー	６月５日(月)～６月９日(金)	10：40～18：00	絵画会
	６月20日(火)～６月24日(土)	10：00～18：00	陶芸部稲穂窯
27号館１階 ショーウィンドウ	６月10日(土)～６月16日(金)	―	写真部
	６月20日(火)～６月24日(土)	―	陶芸部稲穂窯

文化事業
早稲田文化芸術週間 2017

期間 10月９日(月・祝)～10月21日(土)

会場 大隈記念講堂、小野記念講堂、演劇博物館、會津八一記念博物館ほか

早稲田文化芸術週間は本学の文化普及・社会貢献・地域振興活動を社会に発信することを目的に2010年度より開始、本学最大の文化芸術フェスティバルとなっている。近年ではキャンパスの枠を越え、学外との連携強化も図っている、2017年度は漱石山房記念館オープン記念講演会、地元商店会店舗での早稲田スポーツ展覧会、地元ラーメン店・生協との食イベントなどを開催。早稲田・高田馬場周辺情報のフリーペーパー「ジモア」、東京メトロ沿線だより、新宿区報でも広報を行った。

早稲田文化芸術週間2017（10/9(月・祝)～21(土)）来場者数

No.	企画名	来場者数	日程	時間	会場	主催箇所
1	早稲田文化芸術週間 2017　ミュージアムライブ	1,200	10月9日(月・祝)	12:20～12:50	會津八一記念博物館前	文化企画課
2	早稲田文化芸術週間 2017　オープニングライブ	320	10月9日(月・祝)	18:00～19:20	大隈記念講堂大講堂	文化企画課
3	新しくみえてきた早稲田の歴史 ―『百五十年史』編纂過程の成果と課題―	118	10月9日(月・祝)	14:45～17:00	小野記念講堂	大学史資料センター
4	演劇博物館スペシャル企画 劇団東京乾電池『小さな家と五人の紳士』	84	10月9日(月・祝)	16:30～17:30 19:00～20:00	演劇博物館２階　企画展示室	演劇博物館
5	学生留学アドバイザー企画 世界、出てみたらこんなとこ！	32	10月10日(火)	15:00～18:00	大隈記念講堂小講堂	留学センター
6	小学生のための心と身体をひらくワークショップ 「からだ・おんがく・ことばであそぼう！」	70	10月10日(火)	16:30～17:30	小野記念講堂	文化企画課
7	東京 2020　公認教育プログラム 川淵三郎キャプテン企画　「早稲田 2020」講演会	100	10月10日(火)	18:15～19:30	大隈記念講堂大講堂	オリンピック・パラリンピック事業推進室
8	芸術の秋、日本の音色 ～学生と職員による三味線・箏・尺八演奏～	200	10月11日(水)	18:30～19:45	大隈記念講堂大講堂	文学学術院、教育・総合科学学術院、理工学術院、総務部
9	夏目漱石生誕 150 周年と漱石山房記念館	55	10月12日(木)	15:00～16:00	大隈記念講堂小講堂	文化企画課
10	世代を超えた早稲田棋士 加藤一二三×竹俣紅トークショー	320	10月13日(金)	18:30～20:00	大隈記念講堂大講堂	文化企画課
11	2017 稲門祭	―	10月15日(日)		早稲田キャンパス	早稲田大学校友会(2017稲門祭実行委員会)
12	U.S-MEXICO-CUBA　内海信彦ワークショップ報告会 「滅亡したマヤ文明と崩壊に向かう現代文明をメキシコ・キューバ革命の世界史的意義から再考する」	89	10月16日(月)	16:00～20:30	大隈記念講堂大講堂	商学学術院WBS研究センター　アントレプレヌール研究会
13	演技と歌と音楽の反応！ 生演奏ミュージカルワークショップ	50	10月16日(月)	17:30～20:30	小野記念講堂	文化企画課
14	古代ギリシャ×演劇×早稲田 ～この世は舞台、早稲田は古代ギリシャ～	220	10月16日(月)	19:00～20:30	大隈記念講堂小講堂	文化推進学生アドバイザー、文化企画課
15	青少年自殺防止ミュージカル「つまづいても」	128	10月17日(火)・18日(水)	10/17　18:30～20:30 10/18　16:45～18:45	小野記念講堂	早稲田大学保健センター
16	日本舞踊への誘い　by五耀會	430	10月18日(水)	18:00～20:00	大隈記念講堂大講堂	文化企画課
17	学生文化×産学連携 変わる早稲田―学修ポートフォリオ・フォーラム	178	10月19日(木)	17:00～19:00	大隈記念講堂小講堂	大学総合研究センター
18	早稲田大学交響楽団＆加藤露弥 Joint Concert 2017	85	10月19（木）	19:00～20:30	小野記念講堂	文化企画課
19	創立記念日前日スペシャル 早稲田スポーツ・アニバーサリーステージ ※雨天中止	―	10月20日(金)	12:15～13:00	會津八一記念博物館前	体育各部実行委員会、競技スポーツセンター
20	博物館に行こう、美術品を鑑賞しよう ―文学・歴史学・美術史学・考古学からの提言―	100	10月20日(金)	13:00～16:00	戸山キャンパス33号館第１会議室	文学学術院
21	WASEDA EDGE-NEXT人材育成のための共創エコシステムの形成　キックオフシンポジウム	324	10月20日(金)	13:30～19:00	大隈記念講堂大講堂	博士キャリアセンター
22	魅惑のワセメシ紹介ツアー	8	10月21日(土)	11:30～12:15	インフォメーションスクエア	広報室広報課
23	早稲田大学所蔵資料に見る日蘭関係史研究の今後 ―洋学文庫、富田万里子コレクションを通して―	40	10月21日(土)	13:00～16:00	小野記念講堂	會津八一記念博物館
24	早稲田大学交響楽団 WASEDA Anniversary Concert 2017	400	10月21日(土)	14:00～16:00	大隈記念講堂大講堂	早稲田大学交響楽団
25	究極の進取の精神を追求する若き校友・社会起業家「最高の授業を世界の果てまで届けよう」	80	10月21日(土)	16:30～17:45	大隈記念講堂小講堂	校友課・早稲田大学春秋会
26	創立記念日カウントダウン企画	―	10月21日(土)	10/14（土）～21（土）	大隈重信銅像周辺、８号館・９号館周辺の掲示板	学生生活課
27	漫画研究会プレゼンツ、早稲田の思い出を似顔絵に！	50	10月9日(月・祝) 10月10日(火) 10月16日(月) 10月17日(火) 10月18日(水) 10月19日(木) 10月21日(土)	12:45～14:45 14:30～16:30 15:30～17:30 16:30～18:30 14:45～16:45 17:00～19:00 11:00～13:00	小野記念講堂ロビー	文化企画課
28	学生アドバイザープレゼンツ、わせだかるちゃーパズル	361	10月9日(月・祝)～21日(土)	10:00～16:30	會津八一記念博物館ほか	文化推進学生アドバイザー、文化企画課
29	学生アドバイザープレゼンツ、銅像フォト	100	10月9日(月・祝)～21日(土)	10:00～16:30	大隈重信像前ほか	文化推進学生アドバイザー、文化企画課
30	禅書画のたのしみ	1,323	10月5日(木)～11月25日(土) ※日曜・祝日休室	10:00～17:00	會津八一記念博物館・富岡重憲コレクション展示室	會津八一記念博物館
31	アフリカ横断一万粁　―関根吉郎とアフリカ・マヤ資料コレクション―	1,422	10月12日(木)～11月18日(土) ※日曜・祝日休室	10:00～17:00	會津八一記念博物館・企画展示室	會津八一記念博物館
32	早稲田大学×美濃加茂市　文化交流10周年記念展	111	10月9日(月・祝)～15日(日)	10:00～18:00	ワセダギャラリー	文化企画課
33	ヒトラーに抗した学生たち―ミュンヒェン・白バラ	43	10月17日(火)～11月11日(土) ※日曜休室	10:00～18:00	ワセダギャラリー	人間科学学術院・村上研究室
34	カリグラフィー作品展 ―美しい手書き文字の世界―	430	10月10日(火)～21日(土)	―	エクステンションセンター中野校	エクステンションセンター中野校
35	内海信彦＋飯島千恵　二人展 “Innerscape”	―	10月16日(月)	11:00～19:00	大隈記念講堂大講堂ロビー	商学学術院WBS研究センター　アントレプレヌール研究会
36	文化芸術週間限定メニュー 福井ソースカツ丼	3,290	10月9日(月・祝)～10月21日(土)	営業時間内	生活協同組合、文化推進学生アドバイザー、文化企画課	文化企画課
37	100円朝食（早大生限定・１日100食限定）	2,520	10月2日(月)～10月13日(金) 平日 10月16日(月)～10月27日(金) 平日	大隈：8:00～8:45 理工：8:00～8:45 戸山：8:00～8:45 所沢：8:30～9:15	学生生活課、学生健康増進互助委員会、生活協同組合	文化企画課
38	早稲田スポーツ展	―	10月9日(月・祝)～21日(土)	営業時間内	早稲田大学周辺商店連合会各店舗	文化企画課
39	高田馬場・早稲田　ジモアラーメン総選挙2017	742	10月2日(月)～11月30日(木)	営業時間内	高田馬場・早稲田界隈	文化企画課

●来場者数　15,023名

文化事業
2017年度　出品・展示協力

【坪内博士記念演劇博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
9月16日～11月26日	開館15周年記念「誉のくまもと」展	熊本市現代美術館
10月14日～10月15日	第５回蒲田映画祭「小沢昭一的こころの部屋」	一般社団法人大田観光協会
10月21日～11月19日	特別展「幽霊－美と醜の物語」	徳島市立徳島城博物館
2018年２月10日～３月11日	美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 10周年記念共催展 「絵を通して見る坪内逍遙」	美濃加茂市民ミュージアム

【會津八一記念博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
４月１日～６月25日	生誕100年 長沢 節 展 ～デッサンの名手、セツ・モードセミナーのカリスマ校長～	弥生美術館
９月28日～11月20日	練馬区独立70周年記念展 没後20年 麻田浩展 －静謐なる楽園の廃墟－	練馬区立美術館
10月７日～11月19日	第21回企画展 芭蕉涅槃図の世界 ～旅に病で夢は枯野をかけ廻る～	奥の細道むすびの地記念館
10月７日～12月11日	2017年度 新潟市會津八一記念館特別展「禅 ZEN」 早稲田大学會津八一記念博物館 富岡コレクションを中心に	新潟市會津八一記念館
10月15日～12月３日	ピカソと日本美術　－線描の魅力－	和泉市久保惣記念美術館
11月３日～12月10日	第32回企画展「装飾壺からみた弥生時代の朝霞」	朝霞市博物館
2018年１月16日～３月11日	長崎県名誉県民　松尾敏男展	長崎県美術館
2018年２月10日～６月３日	平成29年度特別展「山野貝塚のヒミツを探る」	袖ケ浦市郷土博物館
2018年２月10日～３月11日	美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 10周年記念共催展 「絵を通して見る坪内逍遙」	美濃加茂市民ミュージアム
2018年３月17日～５月13日	肥前さが幕末維新博覧会特別展「温故維新－美・技のSAGA－」	佐賀県立美術館
2018年３月20日～４月18日	猪熊弦一郎展「猫たち」	Bunkamuraザ・ミュージアム
2018年３月24日～５月６日	さくら市ミュージアム開館25周年記念 松尾敏男展～大観・南風・寛方の系譜を継ぐ～	さくら市ミュージアム

【大学史資料センター】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
10月５日～11月９日	江戸後期、知の探究者たちが切り拓いた世界 －応用化学科創立百周年記念展示－	早稲田大学先進理工学部 早稲田大学図書館
2017年10月７日～2018年３月11日	南アルプス市ふるさと人物室第３回展示「石橋湛山×気骨」	南アルプス市立中央図書館
11月28日～12月13日	特別展「近代日本と慶應スポーツ－体育の目的を忘るゝ勿れ－」	慶應義塾体育会 慶應義塾福澤研究センター

地域交流事業

文化推進部は、本学の優れた文化資源を公開し各地の教育研究活動に役立て、また本学が有する人的資源を地域社会の教育や文化推進に活用し社会貢献するため、さまざまな文化事業を展開している。本学のキャンパスが所在する地域や包括協定・文化交流協定を締結した地域で、大学が所蔵する貴重な文化財を巡回展覧会により公開している。また、地域の行政・企業・住民と連携して、本学の学生・教職員に校友も加わり、演劇・映画・映像・音楽・文学・芸術・科学・スポーツなどの多様なイベントを協働で実施している。

1．福島県白河市

2014年、白河市と早稲田大学間で交流事業の実施を検討し、文化交流事業としてスタートすることとした。これまで会場として利用してきた白河市民会館が2016年９月に閉館し、新たな文化発信拠点「白河文化交流館コミネス」が開館したことに伴い、今回はオープニングイベントとして参加した。第１部は本学が誇る男声合唱団「グリークラブ」によるコンサート。第２部ではグリークラブと白河文化交流館コミネス専属合唱団である「コミネス混声合唱団」によるコラボレートコンサートを行った。またコンサートの前日には、グリークラブの団員が地元高校の混声合唱部と交流を行った。

■白河市・早稲田大学交流事業
「白河文化交流館コミネス」オープニングイベント

日　　時：８月12日(土) 14：00～15：30
会　　場：白河文化交流館コミネス
主　　催：白河市、早稲田大学
参　　加：約500名

2．長野県軽井沢町

人的交流を通して本学の魅力を理解していただくため、理工学術院教職員の指導による軽井沢町の小学生を対象とした「おもしろ科学実験教室」を1998年から毎年開催している。恵まれた自然環境や広大で豊富な運動施設を誇る軽井沢セミナーハウスの中で、親子がふれあいながら楽しく学んでいる。

■軽井沢町・早稲田大学交流事業「第20回おもしろ科学実験教室」

日　　時：７月22日(土) 10：00～11：45（午前の部）
　　13：15～15：00（午後の部）
会　　場：軽井沢セミナーハウス
主　　催：軽井沢町、早稲田大学
参　　加：小学生100名およびその父兄
内　　容：①ぶるぶるロボットを作ろう（対象：小学１～３年）
　　②ICを使って電子オルゴールを作ろう
　　（対象：小学４～６年生）
　　③20周年特別企画演示実験「空気の不思議」

■軽井沢町・早稲田大学交流事業　講演会

日　　時：2018年２月４日(日)
　　13：00～14：30
会　　場：軽井沢町中央公民館
主　　催：軽井沢町教育委員会
　　早稲田大学
参　　加：33名
内　　容：「南シナ海に関する紛争と国連海洋法条約
　　―海の境界をどのように決めるのか？
　　中国の海洋進出とアジア諸国との緊張を
　　巡って―」
講　　師：河野真理子（法学学術院教授）

3．佐賀県佐賀市

早稲田大学は2006年12月19日、大隈重信の出身地である佐賀県と「連携協働に関する基本協定」を締結し、さまざまな教育・研究の協働事業を展開している。また、佐賀市には大隈候生誕125周年を記念して開館した大隈記念館と国の指定史跡である大隈重信旧宅（生家）があり、毎年２月中旬から３月下旬の「佐賀城下ひなまつり」に合わせて企画展覧会を開催している。早稲田大学との文化事業の窓口は文化企画課が担い、文化推進部三機関のほか本学図書館が協力し、各機関が所蔵する文化財・美術品を貸し出し、展覧会に貢献している。

■大隈重信記念館 開館50周年記念「大隈祭」

日　　時：５月14日(日) ９：30～15：00
会　　場：佐賀市大隈重信記念館
主　　催：佐賀市大隈記念館保存会
　　※本学は校友会佐賀県支部とともに協力
記念講演：「停滞は死滅である－大隈重信の生涯と人間像」
　　講師…真辺将之（文学学術院教授）
開館50周年特別講演：「伊藤比呂美流 女子教育論」
　　講師…伊藤比呂美
　　（第５回早稲田大学坪内逍遙大賞受賞）

4．岐阜県加茂郡八百津町

早稲田大学を母校とし、「命のビザ」で知られる杉原千畝が育った、岐阜県加茂郡八百津町より文化振興交流の要望があり、2016年度から実施された地域交流事業。今回は以下の催し物が実施された。また、コンサート翌日は合唱団が町内の「八百津中学校」「八百津東部中学校」を訪問。本学の校歌や応援歌、合唱団のメインレパートリーを披露するミニコンサートを行った後、中学生たちの合唱にアドバイスを行ったほか、中学生と一緒に給食を食べるなどして交流を深めた。

中学校訪問後は合唱団から選抜された５名が町の教育委員会を訪れ、町の若手職員と今後の町づくりに対し必要なことは何か、について意見交換を行った。

■岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティー・コンサート'17」

日　　時：８月31日(木) 19：00～20：30
会　　場：八百津町ファミリーセンター
主　　催：八百津町、早稲田大学
参　　加：約350名
内　　容：早稲田大学混声合唱団による３部構成のコンサート。童謡・唱歌や、「夢の中へ」「上を向いて歩こう」など耳馴染みの深い昭和の名曲、早混が得意とするモーツァルトなどの外国音楽が披露された。

5．東京都

東京都との地域交流事業として、以下の催し物の後援を行った。

■「歴史的建造物の保存を支援するチャリティコンサート」

2014年度より東京都の「東京歴史まちづくりファンド」の一環として実施されているイベント。「歴史的建造物」を次世代に引き継ぐ貴重な景観資料であるという観点から、国の重要文化財である大隈記念講堂にてチャリティーコンサート並びに大隈記念講堂を設計した佐藤総合計画の講演会を行った。本学のシンボル的な存在である大隈記念講堂を、より多くの方に紹介する企画となった。

日　　時：７月31日(月) 17：00～19：30
会　　場：大隈記念講堂大講堂
主　　催：東京都都市整備局
参　　加：約300名

6．中野区

中野区との地域交流事業として、2010年より早稲田大学交響楽団による「Maple Concert」（メープルコンサート）を開催している。2017年度には中野区と早稲田大学の絆をさらに深める好機となることを願い、新企画「小学生向けワークショップ」を実施した。

■中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2017」

日　　時：11月19日(日) 14：00～16：00
会　　場：なかのZERO大ホール
主　　催：中野区、文化推進部文化企画課
協　　力：なかのZERO指定管理者
指　　揮：寺岡清高

「ワセオケ」の愛称で親しまれる早稲田大学公認のオーケストラ「早稲田大学交響楽団」によるコンサート。中野区と早稲田大学との文化交流事業として、2010年度に開始し、８年連続８回目の開催。970名の来場者を記録。

■「Maple Concert 2017」関連企画「小学生向けワークショップ」

日　　時：①９月20日(水)　②９月22日(金)　③９月26日(火)　④10月４日(水)　⑤11月11日(土)
会　　場：①上高田小学校、鷺宮小学校　②白桜小学校、武蔵台小学校　③江原小学校　④向台小学校　⑤江古田小学校、桃園第二小学校
主　　催：中野区、文化推進部文化企画課

一人でも多くの子どもたちに、早稲田大学交響楽団（ワセオケ）の奏でる音色に親しんでもらいたいという想いから、今年度は「Maple Concert」関連企画として、９月から11月にかけてワセオケによる中野区立の小学校８校への訪問ワークショップを実施した。合わせて1,321名の生徒が参加した。

7．静岡県熱海市

熱海市・熱海稲門会・演劇博物館は、毎年坪内逍遙顕彰事業の一環として「逍遙忌記念祭」を開催し、記念講演会を行っている。また記念祭に合わせ、熱海市教育委員会・熱海稲門会・美濃加茂市・演劇博物館などの逍遙ゆかりの機関・施設が参加する意見交換会を行っている。熱海は逍遙終焉の地で、終の棲家となった双柿舎や墓所の海蔵寺があるほか、逍遙自ら作詞した市歌や、創立に尽力したとされる市立図書館など、逍遙の足跡が多く残る。

■第47回逍遙忌記念祭

日　　時：2018年２月28日(水) 13：00～15：00
会　　場：熱海市「起雲閣」(音楽サロン)
主　　催：熱海市、熱海稲門会、演劇博物館
内　　容：お慕いのことば（熱海市長、熱海稲門会会長、演劇博物館館長）
　　逍遙ゆかりの歌斉唱（坪内逍遙のうた保存会）
　　記念講演「文学者逍遙の目指したもの」中島国彦（早稲田大学名誉教授）

8．新宿区

（1）催し物の後援・協力（文化推進部）　新宿区との地域交流事業として、今年度は以下の催し物の後援・協力を行った。

■平成29年度　新宿区夏目漱石コンクール
読書感想文コンクール「わたしの漱石、わたしの一行」(中学生の部・高校生の部)

応募期間：６月26日(月)～９月15日(金)
表 彰 式：12月10日(日)
会　　場：漱石山房記念館
主　　催：新宿区・新宿区教育委員会　※本学は後援
審 査 員：審査委員長　森まゆみ（作家）
　　審査委員　　中島国彦（早稲田大学名誉教授）
　　久保庭健吉（日本国語教育学会常任理事）
　　吉住健一（新宿区長）
　　酒井敏男（新宿区教育長）

なお、中学生の部、高校生の部、それぞれに「早稲田大学賞」を顕彰している。

■平成29年度　新宿区夏目漱石コンクール
絵画コンクール「あなたが見た夢、見たい夢を描いてみよう！」(小学生の部)

応募期間：６月26日(月)～９月15日(金)
表 彰 式：12月10日(日)
会　　場：漱石山房記念館
主　　催：新宿区・新宿区教育委員会　※本学は後援
審 査 員：審査委員長　森まゆみ（作家）
　　審査委員　　藪野健（府中市美術館館長、日本藝術院会員、早稲田大学栄誉フェロー）
　　南口清二（一般社団法人二紀会理事）
　　吉住健一（新宿区長）
　　酒井敏男（新宿区教育長）

なお、小学生低学年の部、小学生高学年の部、それぞれに「早稲田大学賞」を顕彰している。

■新宿区立 漱石山房記念館 開館記念イベント
漱石と日本、そして子どもたちへ

日　　時：10月28日(土)　14：00～17：00
会　　場：大隈記念講堂
主　　催：新宿区
後　　援：朝日新聞社、早稲田大学
参　　加：約900名

■第８回　早稲田の街スプリングコンサート

日　　時：2018年３月４日（日）14：00～17：00
会　　場：大隈記念講堂
主　　催：早稲田の街スプリングコンサート実行委員会
後　　援：新宿区・新宿区教育委員会
協　　賛：早稲田宝泉寺、早稲田大学周辺商店連合会（W商連）
協　　力：文化推進部、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会
出店・展示協力：社会福祉法人東京都知的障害者育成会「新宿区立新宿生活実習所」
　　社会福祉法人新宿あした会「新宿第二あした作業所」
参　　加：約300名

（２）平成29年度　文化庁補助事業「新宿から文化を国際発信する演劇博物館実行委員会」（演劇博物館）

2016年度に引き続き、今年度も文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択されたことを受け、新宿区の文化観光課や教育委員会、公益財団法人新宿未来創造財団などと連携し、新宿を中心とした地域文化・観光の振興、人材育成、国際的発信力の強化や演劇博物館の多言語化などを目指してさまざまな活動を実施した。

催物名	日　程	会　場	講師・出演
特別展 「あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ」	６月３日(土)～７月２日(日)	新宿高野本店ビル６階 特設会場	
enpaku多言語ツアー	６月20日(火)、７月４日(火) ７月14日(金) ７月17日(月・祝)	演劇博物館	
親子で探険　エンパクツアー	７月31日(月)、８月２日(水)	６号館３階　318教室 演劇博物館館内	講師：児玉竜一（演劇博物館副館長）
エンパク★こども演劇教室2017 演じるってなんだろう？	８月23日(水)～８月25日(金)	早稲田小劇場どらま館 ３号館710教室ほか	講師：平田オリザ（劇作家、演出家）
劇団東京乾電池 別役実 作『小さな家と五人の紳士』	10月９日(月・祝)	演劇博物館２Ｆ　企画展示室	演出：柄本明（俳優） 出演： （第１回公演）柄本明、鈴木千秋、池田智美 諫早幸作、嶋田健太、鹿野祥平 杉山恵一 （第２回公演）柄本明、鈴木千秋、西本竜樹 両角周、重田未来人、土居正明 前田亮輔
エンパクシネマ	10月24日(火)	演劇博物館前舞台	出演：映楽四重奏　The Film Quartet 片岡一郎(活動写真弁士)、宮澤やすみ(三味線) 上屋安由美（ピアノ）、田中まさよし（太鼓）
日本演芸若手研精会 in 早稲田	11月８日(水)	大隈記念講堂小講堂	出演：春風亭正太郎、春風亭昇々、桂宮治 入船亭小辰、柳家緑太（落語家）
岡崎藝術座リーディング公演 『バルパライソの長い坂をくだる話』	11月24日(金)	小野記念講堂	作・演出：神里雄大 出演：古舘寛治、鷲尾英彰、大村わたる（柿喰う客） 照明：筆谷亮也　音響：和田匡史 協力：マッシュマニア トークゲスト：佐々木敦（批評家、HEADZ主宰）
出張体験教室〈常磐津〉	11月29日(水)	都立江東特別支援学校	講師：常磐津和英太夫（太夫） 常磐津菊与志郎（三味線方）
出張体験教室〈狂言〉	12月５日(火)、12月20日(水) 2018年１月11日(木)	都立光明学園・そよ風分教室 都立田園調布特別支援学校 都立八王子特別支援学校	講師：善竹十郎、善竹大二郎（能狂言方）
早稲田大学演劇博物館・文学座共催シンポジウム 「日本物（和物）の芝居の継承とこれからの文学座 ―百周年に向けて―」	12月６日(水)	小野記念講堂	登壇者：新橋耐子（文学座俳優） 山本郁子（文学座俳優） 大笹吉雄（演劇評論家） 司会：児玉竜一（演劇博物館副館長）
能楽堂狂言ワークショップ	12月21日(木)	矢来能楽堂	講師：善竹十郎、善竹大二郎（狂言師）
鈴木忠志×渡辺保 ―― 『劇的なるものをめぐってII』上映会	2018年１月15日(月)	大隈記念講堂大講堂	登壇者：鈴木忠志（演出家、劇団SCOT主宰） 渡辺保（演劇評論家）
『演劇クエスト』をつくってみるワークショップ	2018年１月27日(土) 28日(日)	大学構内および周辺	講師：藤原ちから（BricolaQ主宰）
国際シンポジウム 「不可能への挑戦　形のないアートを保存する ―博物館におけるパフォーマンスアーツとメディアアーツのアーカイブと展示を巡って―」	2018年２月22日(木)	国際会議場　第一会議室	講師：エリック・コリアリー（テキサス大学ハリーランサムセンター） ラモーナ・ルイジェフスキ（ヴィクトリア&アルバート博物館） 畠中実（NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］） 土屋紳一（演劇博物館） 司会：岡室美奈子（演劇博物館館長）

9．岐阜県美濃加茂市

2007年４月、文化推進部発足を機に、本学は坪内逍遙と津田左右吉の生誕地である美濃加茂市と「文化交流協定」を締結した。

美濃加茂市は逍遙の功績を称え市民文化の向上を図るため、1994年に「坪内逍遙大賞」を創設し、演劇分野において坪内逍遙の功績を再認識させるような優秀な活動・著作を表彰している。本学は文化交流協定の一環として2007年に「早稲田大学坪内逍遙大賞」（48ページ参照）を制定し、互いに隔年で授賞することとなった。

このほか、以下のさまざまな交流事業を実施している。

（1）学生演劇公演（文化企画課）

学内公募で選ばれた本学の学生劇団が、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムに約１週間合宿し野外公演を行う企画で、2008年より毎年９月に実施。滞在中に県立加茂高等学校などでの演劇ワークショップ、坪内逍遙博士顕彰会との交流、坪内逍遙に関する学習なども行ってきた。

■第10回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業学生公演
早稲田大学劇団森「美濃加茂に贈る、あたしとぼくの、ヒーローのショー」

日　　時：９月16日(土) 17：30～　※17日(日) は台風接近のため公演中止
会　　場：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム
作・演出：川口コウ　　協　　力：坪内逍遙博士顕彰会
出　　演：早稲田大学劇団森ほか　　来場者(のべ)：100名
主　　催：文化推進部文化企画課
　　みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム

■早稲田大学・美濃加茂市学生演劇公演10周年記念
早稲田・美濃加茂交流まち演劇プロジェクト「まち × 演劇 × アート」

①演劇「みち・ひき」アムリタ
　脚本・演出：荻原永璃
　出 演 者：河合恵理子、藤原未歩、大矢文、金子美咲
　日　　時：９月18日(月・祝)　13：00／18：00開演
　会　　場：御代桜醸造株式会社（岐阜県美濃加茂市太田本町3-2-9）
②演劇「月はお前を見ない」
　テキスト・構成：カゲヤマ気象台　　場　　所：美濃加茂市内各所（図書館など）
　日　　時：９月上旬より
③アート「travel drawing」 高田裕大
④飲食店出店　コクウ珈琲、Super Fantastic Noodles LLC.（SFN.LLC.）、御代桜醸造株式会社

主　　催：早稲田・美濃加茂交流まち演劇プロジェクト実行委員会
後　　援：美濃加茂市教育委員会
協　　力：御代桜醸造株式会社、坪内逍遙博士顕彰会、射延憲児（早稲田小劇場どらま館企画責任者）

（2）「木立に響く逍遙」後援（演劇博物館）

2010年度より毎年秋に、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム主催で開催される邦楽による逍遙作品の演奏会。

■木立に響く逍遙　vol. 8　お囃子の世界に親しむ

日　　時：10月19日(木) 18：30～20：00
会　　場：みのかも文化の森エントランスホール
出　　演：笛／福原徹
　　囃子／福原百之助、藤舎清穂、福原大助
企画・監修：濱口久仁子
内　　容：「広がるお囃子の世界―篠笛　能管　小鼓　大鼓　太鼓…楽器と表現」
　　（長唄「新曲浦島」より―囃子による、笛による抒情歌、三番叟、獅子ほか）
主　　催：美濃加茂市、坪内逍遙作品研究・上演実行委員会
後　　援：演劇博物館
助　　成：公益財団法人せきしん地域振興協力基金
協　　力：坪内逍遙博士顕彰会

（3）みのかも「声のドラマ」の会朗読公演（文化推進部）

■みのかも「声のドラマ」の会朗読公演

日　　時：2018年２月24日(土)　14：00～15：00
会　　場：早稲田小劇場どらま館
内　　容：木内昇著『茗荷谷の猫』より「てのひら」（文春文庫、2011年）
　　本興寺更著「蔵の中」（文芸中部の会『文芸中部』第97号、2014年11月所収）
出　　演：みのかも「声のドラマ」の会
共　　催：みのかも「声のドラマ」の会、美濃加茂市、文化推進部

10. 千葉県鴨川市

鴨川市と本学の間で「鴨川市太海多目的公益用地に関する基本合意書」（セミナーハウスの誘致）の締結をしたことを契機に、鴨川市民に早稲田大学を理解していただくため、1998年より開始した交流事業である。安房地域の小学生を対象とした理工学術院教職員の指導による「おもしろ科学実験教室」の開催を中心に、講演会やキャンパスツアーなどさまざまな事業を実施している。

■鴨川市・早稲田大学交流事業
「第20回おもしろ科学実験教室」

日　　時：８月23日(水)　９：30～12：00（午前の部）
　　13：30～16：00（午後の部）
会　　場：鴨川市文化体育館（鴨川ドーム）
主　　催：鴨川市、早稲田大学
参　　加：約400名
内　　容：①自分のDNAを見たり、触ったりしよう！（対象：小学１～３年）
②倒立振子ロボットを作ろう（対象：小学４～６年生）
③ぶるぶるロボットを作ろう（対象：小学１～３年生）
④色が変わる?! 消える?! 魔法の溶液で実験してみよう（対象：小学４～６年生）
⑤20周年特別企画演示実験「空気の不思議」

■鴨川市・早稲田大学交流事業　講演会

日　　時：2018年１月27日(土)　13：30～15：30
会　　場：鴨川市文化財センター
主　　催：鴨川市、早稲田大学
参　　加：85名
内　　容：「南シナ海に関する紛争と国連海洋法条約－海の境界をどのように決めるのか？中国の海洋進出とアジア諸国との緊張を巡って－」
講　　師：河野真理子（法学学術院教授）

顕　彰　事　業

1．早稲田大学坪内逍遙大賞

2007年に迎えた創立125周年を記念して、近代日本の文芸・文化の創造者ともいうべき坪内逍遙の偉業を顕彰すると同時に、その精神を広く未来の文化の新たな創出につなげるという願いから、文芸をはじめとする文化芸術活動において著しい貢献をなした個人（もしくは団体）を顕彰すべく、「早稲田大学坪内逍遙大賞」を創設した。また、これからの文化の担い手である若い才能を応援すべく、奨励賞を併せて創設した。あまたある文芸・文化関係の賞の中で、広く開かれた独自の意義を担う賞を目指してゆきたいと考えている。文芸・文化・芸術活動の中から、隔年で「大賞」１名、「奨励賞」１名を選んで顕彰する。副賞として記念のメダルと大賞100万円、奨励賞50万円を贈呈している。

早稲田大学は、文化推進部が2007年４月に発足したのを機に、美濃加茂市との間で同年春に文化交流協定を締結した。この協定の精神には本学の地域連携の理念がある。具体的には早稲田大学と美濃加茂市とが、隔年で独自の選考基準に基づきつつも坪内逍遙大賞を選考し、結果的に毎年の授賞を実現しようというものである。美濃加茂市坪内逍遙大賞が演劇人の顕彰であるのに対して、早稲田大学坪内逍遙大賞は坪内逍遙の業績に鑑み、文芸をはじめとする文化全般に貢献した人々を顕彰することを目指している。

過去の受賞者

受賞年度	坪内逍遙大賞	奨 励 賞
2007（第１回）	村上　春樹	川上未映子
2009（第２回）	多和田葉子	木内　　昇
2011（第３回）	野田　秀樹	円城　　塔
2013（第４回）	小川　洋子	小野　正嗣、山田　　航
2015（第５回）	伊藤比呂美	福永　　信
2017（第６回）	柴田　元幸	アーサー・ビナード

第６回（2017年）　授賞式11月６日（月）

大　賞
柴田　元幸

【授賞理由】柴田元幸氏は、長らく英語作品の翻訳にたずさわってこられた。明治以降、150年近く、わたしたちの国の文化は翻訳をその大きな糧として育ってきたが、その中にあって、柴田氏の業績は最大・最良の一つであろう。柴田氏が翻訳者として生み出したことばは、日本語・日本文学に新しい可能性をひらくものであった。坪内逍遙は、翻訳・評論・実作を通じ日本近代文学成立に関わった人物であり、柴田氏の訳業は、まさに本賞を授賞するにふさわしいものである。

奨励賞
アーサー・ビナード

【授賞理由】アーサー・ビナード氏が1990年の来日以来、詩作からエッセイ、絵本、講演などを通じ展開してきた言語活動には、そのダイナミックさ、達成の深さと広がりの質において比類ないものがある。また、ラジオでの放送をもとに上梓した戦争体験者たちの探訪の記録『知らなかった、ぼくらの戦争』（2017）は一読、これまで知られなかった日本人、日系アメリカ人の戦争と戦後の真実に光をあてるもので、27年間の活動の集大成と評しうる。よってこの機会に、その徒手空拳で開始された日本での言語的冒険の総体に対し、敬意を表するとともに、顕彰を行う。

2．若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）

宮崎県出身の歌人、若山牧水（1885～1928年）を顕彰する短歌募集事業。若山は旧制延岡中学を経て、早稲田大学英文科卒（1908年）。同級生の北原白秋（射水）、中林蘇水と親交を厚くし、「早稲田の三水」と呼ばれる。

毎年、全都道府県から広く募集し、短歌大賞、優秀賞などを決定しているが、早稲田大学は「審査員特別賞　早稲田大学賞」として、３名顕彰している。

3．梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）

梓立祭（しりつさい）は、「学苑創立の母」といわれる小野梓（1852～1886年）の誕生日２月20日（新暦の３月10日）を記念日として祝う祭りである。梓立祭は顕彰するとともに、小野梓の研究をとおして、教育文化・芸術の向上を図りながら、宿毛の偉人たちも順次顕彰し、過去の偉人達の足跡に学びながら青少年の健全育成や宿毛の文化・教育の発展に寄与することを目的とする。

梓立祭では、作文、絵画コンクールを実施し、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を小学生、中学生各１名を顕彰している。

4．旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」

旺文社が主催となって、「全国の小・中・高校生の研究・アートおよび文芸の振興奨励と、青少年の個性の育成」を目的として、1957年から行われている顕彰事業。

このコンクールは、幅広く多様な分野に部門を設け、児童・生徒がそれぞれの得意分野で制作した作品を応募するコンクールとなっている。優秀作品には、内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞などが授与される。早稲田大学は「早稲田大学総長賞」として、文芸Ⅰ（小説・詩部門）の最優秀者を表彰している。

5．小川未明文学賞（新潟県上越市）

上越市が生んだ日本児童文学の父、小川未明（1882～1961年）の作品および業績を広く市内外に紹介するとともに、子供の感性や想像力を育むといった理念で設立された顕彰事業。未明は早稲田大学英文科在学中より執筆活動を開始し、1905年に卒業。生涯で1,000点以上の作品を世に送り出し、「日本のアンデルセン」として読者に親しまれている。小川未明文学賞は、小学生を対象にした創作児童文学に与えられる文学賞である。文化推進部は、後援顕彰事業として行っている。

学術研究書出版制度

1．学術情報発信の基盤としての出版事業

2008年度からスタートした学術研究書出版制度は、「大学の研究教育の内容やその水準を直接に体現する手段のひとつであり、当該大学にとって枢要な使命を担う」と位置付け、その充実こそが、大学全体のアカデミック・ステイタスの維持・向上に直結するという考えを示してきた。これまで研究教育活動や多様な文化事業の成果を効果的に発信するために、早稲田大学と早稲田大学出版部は連携してきた。

出版事業が学術情報発信の基盤をなすという認識から、大学が直接これに関わって、自らの使命を果たすことが、学術研究書出版制度の主旨であるといえる。

2．学術研究書出版制度の見直しについて

学術研究書出版制度について、2015年度に以下の見直しを行い、新たな制度のもと、2016年度に引き続き、2017年度に２種類の学術叢書を発行した。

（1）２種類の学術研究書シリーズ　―　学術叢書とエウプラクシス叢書

「早稲田大学学術叢書」は、本学のアカデミック・ステイタスの維持・向上を目的とし、良質な学術研究書の出版機会を引き続き提供する。

また、以前の「早稲田大学モノグラフ」に代わって、新鋭研究者のための叢書「早稲田大学エウプラクシス叢書」（「エウプラクシス」は、ギリシャ語で「成功を収めた実績」の意味）を発刊し、出版経験の少ない研究者に対して出版機会を提供するため、出版部の専門の編集者が入稿から刊行まで、原稿の完成に向けて支援する体制を作る。いずれも上製本のA5判とし、ページ数、字数などの詳細は募集要項に記載する。

（2）審査のプロセスと採否の最終決定について

「書面審査」では、学内外の複数の専門審査員に、原稿と提出書類に基づく審査および評価を行う。専門審査員は、応募分野の専門研究者を中心に研究者データベースなどから抽出し選定する。学位論文をベースにしている場合は、指導教員などの関係者は除かれ、公正性を維持する。「書面審査」による評価点に、出版物としての市場性の観点から出版部編集者の意見を加え、学事統括常任理事および文化推進担当理事が最終決定を行う。

（3）出版企画委員会の役割

委員会は、文化推進を担当する理事からの諮問を受けて、レベルの高い学術文化情報の発信、国際社会における本学のアカデミック・ステイタスの向上を目指して、この制度における学術書と学内外の優れた学術研究成果の応募促進のために審議する。

（4）応募資格の拡大と募集要項などの見直し

上記の改善に伴い、「早稲田大学学術叢書」および「早稲田大学エウプラクシス叢書」の応募資格を拡大し、募集要項、審査要領などの内容を見直す（募集要項の詳細については、ウェブサイト「早稲田文化」の学術出版支援の欄を参照）。

学術叢書刊行一覧（2009年３月～2017年３月）

刊行№	書　　名
学術叢書１	濱川栄『中国古代の社会と黄河』
学術叢書２	真辺将之『東京専門学校の研究』
学術叢書３	中垣啓『命題的推論の理論』
学術叢書４	堀真清『一亡命者の記録』
学術叢書５	藤井千春『ジョン・デューイの経験主義哲学における思考論』
学術叢書６	鳥越皓之『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らし』
学術叢書７	山内晴子『朝河貫一論』
学術叢書８	金孝淑『源氏物語の言葉と異国』
学術叢書９	鈴木勘一郎『経営変革と組織ダイナミズム』
学術叢書10	佐藤洋一『帝政期のウラジオストク』
学術叢書11	五十嵐誠一『民主化と市民社会の新地平』
学術叢書12	内田悦生・下田一太（コラム執筆）『石が語るアンコール遺跡』
学術叢書13	青木雅浩『モンゴル近現代史研究』
学術叢書14	飯山知保『金元時代の華北社会と科挙制度』
学術叢書15	上野和昭『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』
学術叢書16	Ayako Yoshino『Pageant Fever』

刊行№	書　　名
学術叢書17	河西宏祐『全契約社員の正社員化』
学術叢書18	市川熹『対話のことばの科学』
学術叢書19	伊藤りさ『人形浄瑠璃のドラマツルギー』
学術叢書20	石濱裕美子『清朝とチベット仏教』
学術叢書21	黒崎剛『ヘーゲル・未完の弁証法』
学術叢書22	片木淳『日独比較研究市町村合併』
学術叢書23	Rieko Suzuki『Negotiating History』
学術叢書24	杵渕博樹『人類は原子力で滅亡した』
学術叢書25	奥野武志『兵式体操成立史の研究』
学術叢書26	井黒忍『分水と支配』
学術叢書27	岩佐壯四郎『島村抱月の文藝批評と美学理論』
学術叢書28	高橋弘幸『企業競争力と人材技能』
学術叢書29	高橋勝幸『アジア冷戦に挑んだ平和運動』
学術叢書30	小松志朗『人道的介入』
学術叢書31	渡邉将智『後漢政治制度の研究』
学術叢書32	石井裕晶『制度変革の政治経済過程』

学術研究書出版制度

刊行№	書　　名
学術叢書33	森佳子『オッフェンバックと大衆芸術』
学術叢書34	北山夕華『英国のシティズンシップ教育』
学術叢書35	Yoshio Ueno『An Automodular View of English Grammar』
学術叢書36	森祐司『地域銀行の経営行動』
学術叢書37	竹中晃二『アクティブ・ライフスタイルの構築』
学術叢書38	渡邊詞男『格差社会の住宅政策』
学術叢書39	岩田圭一『アリストテレスの存在論』
学術叢書40	藤岡典夫『環境リスク管理の法原則』
学術叢書41	陳丹舟『中国独占禁止法－法体系とカルテル規制の研究』
学術叢書42	上野義雄『An Automodular View of Ellipsis』
学術叢書43	小松寛『日本復帰と反復帰－戦後沖縄ナショナリズムの展開』

刊行№	書　　名
学術叢書44	工藤龍太『近代武道・合気道の形成－「合気」の技術と思想』
学術叢書45	牟倫海『戦後日本の対外文化政策－1952年から72年における再編成の模索』
学術叢書46	楯身智志『前漢国家構造の研究』
学術叢書47	李軍『日中漢字文化をいかした漢字・語彙指導法－「覚える」から「考える」へ』
学術叢書48	湯浅有希子『柔道整復師－接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み』
学術叢書49	谷口建速『長沙走馬楼呉簡の研究－倉庫関連簿よりみる孫呉政権の地方財政』
学術叢書50	上野義雄『現代日本語の文法構造－形態論編』
学術叢書51	上野義雄『現代日本語の文法構造－統語論編』

学術叢書刊行一覧（2017年４月～2018年３月）

刊行№	書　　名
学術叢書52	前田徹『初期メソポタミア史の研究』

エウプラクシス叢書刊行一覧（2016年４月～2017年３月）

刊行№	書　　名
エウプラクシス叢書１	島崎崇史『ヘルスコミュニケーション－健康行動を習慣化させるための支援』
エウプラクシス叢書２	酒井雅子『クリティカル・シンキング教育－探求型の思考力と態度を育む』
エウプラクシス叢書３	坂口可奈『シンガポールの奇跡－発展の秘訣と新たな課題』
エウプラクシス叢書４	楯山満照『蜀の美術－鏡と石造遺物にみる後漢期の四川文化』

エウプラクシス叢書刊行一覧（2017年４月～2018年３月）

刊行№	書　　名
エウプラクシス叢書５	飯尾美沙『小児気管支喘息の患者教育－子どもと家族への健康心理学的アプローチ』
エウプラクシス叢書６	鄭榮蘭『日韓文化交流の現代史－グローバル化時代の文化政策：韓流と日流』
エウプラクシス叢書７	陳雅賽『中国メディアの変容－ネット社会化が迫る報道の変革』
エウプラクシス叢書８	森下之博『中国賃金決定法の構造－社会主義秩序と市場経済秩序の交錯』
エウプラクシス叢書９	野口真広『植民地台湾の自治－自律的空間への意志』
エウプラクシス叢書10	Petra Karlová『Japan's Pre－War Perspective of Southeast Asia；Focusing on Ethnologist Matsumoto Nobuhiro's Works During 1919-1945』
エウプラクシス叢書11	水野忠尚『プレデール立地論と地政学－経済のグローバル化と国家の限界』

2017年度　刊行物

文化推進部の各機関では、所蔵資料の目録、展覧会の図録、研究紀要などを定期的に発行している。2017年度に刊行されたものは以下のとおりである。なお、価格は2018年３月31日現在のものである。

【演劇博物館】

（1）図録
大テレビドラマ博覧会

はじめに―テレビの見る夢
　極私的テレビドラマ史…岡室美奈子

テレビドラマの現在
【インタビュー】『あまちゃん』『トットてれび』の演出家に聴くドラマ上で交錯する現実とフィクション…井上剛
【インタビュー】『逃げるは恥だが役に立つ』の脚本家に聴く脚本家は原作の魅力をどのように膨らませるのか…野木亜紀子
宮藤官九郎と日本の「長すぎた思春期」…宇野常寛

山田太一の仕事
〈孤独〉のドラマ―山田太一の笠智衆三部作をめぐって…長谷正人
【コラム】脚本アーカイブズ活動の経緯…石橋映里

今野勉の仕事
【インタビュー】技術の発展と並走するテレビドラマ史…今野勉
『七人の刑事』抜書―今野勉の演出を資料から読む…松井茂

和田勉の仕事
【インタビュー】和田勉にとってテレビドラマとは何であったのか…
ワダエミ・和田翼
和田勉＝テレビという存在論的不安―飯島正旧蔵資料をめぐって…木原圭翔
「クローズアップ」（再録）…和田勉
「拡大」（翻訳）ジャン・エプシュタイン［武田潔訳］

橋田壽賀子の仕事
橋田壽賀子の世界…こうたきてつや
【特別インタビュー】夫・大山勝美、演出家・久世光彦の思い出…
渡辺美佐子
【コラム】WEBサイト「テレビドラマデータベース」運営の経緯…古崎康成
テレビドラマ史年表

発行：2017年５月13日
B5判　160ページ
価格：1,800円（税込）
完売

（2）図録
歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱
Enpaku's Treasure Box of Kabuki and Bunraku

企画展関連図録『歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱』は、もっと「歌舞伎と文楽」に親しんでいただきたいと考え、舞台の表裏や今日までの歩みなどを易しく解説しました。また、外国の方にも日本の伝統芸能に触れていただけるよう、英文もあわせて用意しました。
本書により、みなさまがさらに「歌舞伎と文楽」の世界に触れる機会が増えれば幸いです。

発行：2018年３月23日
A5判　64ページ
価格：1,000円（税込）

（3）演劇博物館報
エンパクブック　114号

今号の見どころは、昨春に開催した企画展「大テレビドラマ博覧会　テレビの見る夢」でご好評いただいたドラマ『お荷物小荷物』の主演俳優、中山千夏さんによる書き下ろしエッセイです。その他、脚本家の野木亜紀子さん、坂元裕二さん、俳優の尾野真千子さんといった豪華ゲストをお招きした関連イベントのレビューなど、エンパクの魅力がたっぷり詰まった1冊。
表紙は、同時開催した特別展「山田太一展」から、山田太一さん脚本の名作テレビドラマ『岸辺のアルバム』のワンシーンです。

発行：2018年３月23日
B5判　74ページ
価格：700円（税込）

（4）紀要
演劇研究 第四十一号

―目　次―
【研究論文】
・『花伝』から『風姿花伝』への書き替えに見る世阿弥の〈歌舞能〉志向―「舞がかり」と歌道の重視へ
【資料紹介】
・『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿（貞享三年閏三月・四月分）…竹本幹夫（入口敦志、江口文恵、近藤弘子、田草川みずき、深澤希望、柳瀬千穂）
・三村竹清日記　不秋草堂日暦（二十六）…三村竹清日記研究会代表柴田光彦（三村竹清日記研究会事務局 松山薫）
・〈坪内逍遙宛諸家書簡３〉坪内逍遙宛　渥美清太郎・鏑木清方・小泉八雲書簡…小島智章、松山薫、柳澤和子
・淡島千景資料を紹介する―宝塚歌劇の考古学に向けて…羽鳥隆英
【研究論文】
・予言の劇としての『サンクチュアリー・ランプ』トム・マーフィーの宗教性をめぐって…三神弘子
・大正期の日本映画における伴奏音楽の「洋楽化」と純映画劇運動…柴田康太郎
・無声期の邦画伴奏における手稿譜の使用実態―無声映画伴奏譜「ヒラノ・コレクション」の筆跡調査と音色表現の分析…白井史人

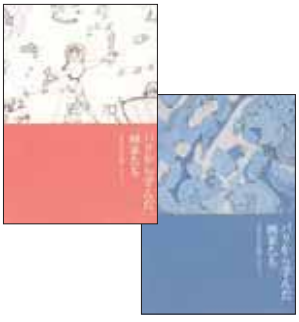
発行：2018年３月16日
B5判　250ページ
無料

【會津八一記念博物館】

（1）富田万里子コレクション
長崎版画展

発行：2017年５月10日
A4判　92ページ
価格：1,000円（税込）

（2）パリから学んだ画家たち
―岡鹿之助から嶋田しづまで



発行：2017年６月29日
B5判　72ページ
価格：1,000円（税込）

（3）アフリカ横断一万粁（キロ）
―関根喜郎とアフリカ・マヤ資料コレクション―

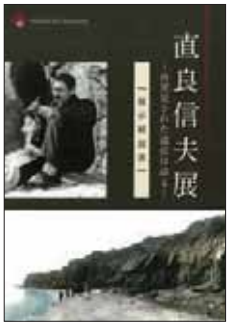
発行：2017年10月12日
A4判　40ページ
価格：800円（税込）

（4）狩谷棭斎墓碑受贈記念
狩谷棭斎 ―学業とその人―

発行：2017年11月28日
A4判　80ページ
価格：1,000円（税込）

【大学史資料センター】

（5）直良信夫展 ～再発見された遺産は語る～



発行：2018年２月26日
A4判　56ページ
価格：1,000円（税込）

（6）早稲田大学會津八一記念博物館紀要第19号

発行：2018年３月31日
A4判　163ページ
価格：1,000円（税込）

（1）記要 早稲田大学史記要第四十九巻

論文「草創期の早稲田大学学生自治会の一側面－教員とのかかわりに着目して」、事業報告（「大隈祭」における講演活動、「早稲田学」公開講義記録、「社会運動情報資源データベース」の拡充について）、「第３回早稲田大学大学史セミナー講演録」そのほか、早稲田大学百五十年史編纂事業進捗報告、展示報告など収録

発行：2018年３月19日
A5判　291ページ
非売品

【文化企画課】

（1）キャンパスがミュージアム vol.1《早稲田キャンパス編》

発行：2015年７月31日
A5判　24ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年４月６日

（2）キャンパスがミュージアム vol.2《大隈庭園編》

発行：2015年７月31日
A5判　13ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年４月６日

（3）キャンパスがミュージアム vol.3《藪野 健の芸術》

発行：2015年７月31日
A5判　22ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年６月20日

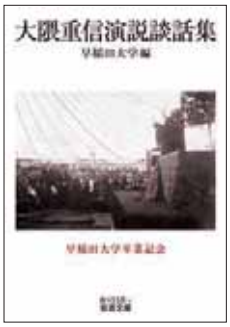
（4）早稲田に歴史あり1

発行：2015年４月６日
A5判　26ページ
価格：200円（税込）

（5）早稲田に歴史あり2

発行：2015年４月６日
A5判　26ページ
価格：200円（税込）

（6）大隈重信演説談話集



岩波書店より刊行。大隈重信の思想が日本の発展にいかに影響を与えたかを理解し、卒業後の社会生活においても役立てることができるようにとの意向から、記念会堂（戸山キャンパス）建て替えにより全体卒業式を実施できない2016年３月より３年間、学部を卒業する全学生を対象に配付することとした。なお、配布に際しては早稲田大学校友会の支援を得ている。

発行：2016年３月16日
A6判　509ページ

（7）大隈重信自叙伝

（6）の演説談話集と同じく岩波書店より刊行。演説談話集が、老境の大隈が若い世代に語ったものが、日本にどう影響を与えたかを示そうとしたのに対し、本書は主に大隈の回顧談資料から自伝的な内容をまとめ、大隈自身の成長と活躍の過程を、自叙伝の形式にまとめようとしたものである。なお、両書を美装ケースに収めた『大隈重信撰集』も早稲田大学歴史館ショップで販売している。

発行：2018年３月16日
A6判　528ページ

2017年度　オリジナルグッズ

早稲田大学では、多くのオリジナルグッズを制作・販売している。ここでは、特に文化推進部の各機関が2017年度に制作・販売したミュージアムグッズについて記録する。なお、価格は2018年３月31日現在のものである。

【演劇博物館】

（1）卓上カレンダー2018

本文用紙12枚、裏表紙、台紙、帯
W10cm×H21cm×D7cm（使用時）
500円（税込）
※３月23日より200円に値下げ

（2）グリーティングカード2018

専用封筒、中紙（挨拶状）付き
表紙の錦絵に関する解説付き（日本語・英語）
W21cm×H11cm（二つ折り時）　200円（税込）

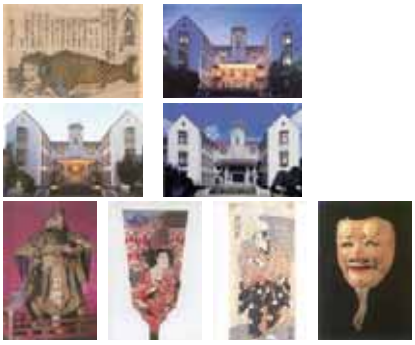
（3）ベケット・エコバッグ

A4サイズ　300円（税込）

（4）ぽち袋

３種類（各３枚入り）、裏面に絵に関する簡単な説明付き
W6.8cm×H11.8cm　400円（税込）

（5）ポストカード



12種類　ハガキサイズ　100円（税込）

（6）ポストカード（６枚セット）

各絵柄１枚ずつ、合計６枚
ハガキサイズ　500円（税込）

（7）ポストカードケース

※ケースのみ
素材：ポリプロピレン
W16.5cm×H11.9cm
300円（税込）

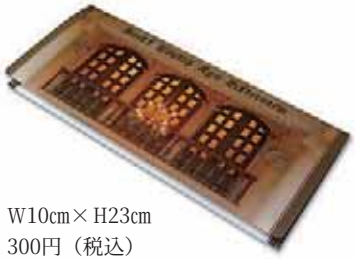
（8）クリアファイル

４種類　A4サイズ
200円（税込）

（9）Wポケット クリアファイル

素材：ポリプロピレン
W16cm×H22.5cm
300円（税込）

（10）チケットホルダー



W10cm×H23cm
300円（税込）

（11）メッセージカード「新富座妖怪引幕」

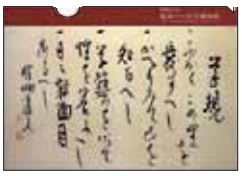
W42cm×H11cm　200円（税込）

（12）コースター

10枚入り　9cm×9cm
200円（税込）

【會津八一記念博物館】

（1）クリアファイル



２種類（「明暗」「学規」）
A4サイズ　200円（税込）

（2）一筆箋

300円
（税込）

（3）ポストカード

30種類　ハガキサイズ
100円（税込）

（4）クリアファイル

２種類（「蛤蜊観音図」「布袋すたすた坊主」）
A5サイズ　250円（税込）

（5）ポストカード

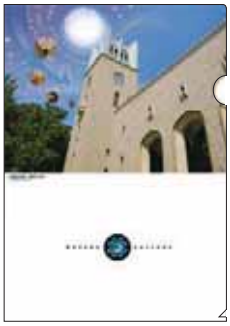
３種類　円形　150円（税込）

【文化企画課】

（1）カレンダー

A3判　壁掛け
500円（税込）

（2）クリアファイル



A4サイズ
200円（税込）

（3）ポストカード

全13種類　100円（税込）

（4）ミニクリアファイル

W11.5cm× H16cm
180円（税込）

（5）ミニメモパッド

1冊30枚　W7.5cm× H7.5cm
150円（税込）

《藪野健　大隈講堂 絵画シリーズ》

（6）大隈講堂 一筆箋

１冊40枚　300円(税込)

（7）大隈講堂 マグカップ

磁器（美濃焼）
口径8cm×高さ8.8cm
1,200円（税込）

（8）大隈講堂 トートバッグ（ベージュ）

カラー転写プリント
生地:ナイロン100%（厚手、裏PVC加工）
持ち手：ポリプロピレン100%
W27cm× H36cm× D9cm
2,750円（税込）

（9）大隈講堂 トートバッグ（ブラック）

カラー転写プリント
生地:ナイロン100%（厚手、裏PVC加工）
持ち手：ポリプロピレン100%
W27cm× H36cm× D9cm
2,250円（税込）

（10）大隈講堂 ポストカード

100円（税込）

（11）「集り散じて」ポストカード

100円（税込）

（12）ブックカバー（藪野健 WASEDA MAP）

300円（税込）

文化発信

文化推進部の広報活動として、定期的に掲載しているものおよびメディアで取り上げられたものを紹介する。以下のほか、文化推進部では演劇博物館、會津博物館、文化企画課がイベント案内を中心としたメールニュースを発行している。

1．Waseda Online（ワセダオンライン）（http//www.yomiuri.co.jp/adv/wol）

毎月掲載。2008年５月から、Yomiuri Online（読売新聞社、インターネット版）ワセダオンラインとして掲載。早稲田大学のニュース、研究力などの分野に分かれており、その中の「文化」の欄で記事を掲載している。日本語で掲載された後、翌週からは英語訳でも掲載される。

年　月　日	記　事　題　名	執　筆　者
2017年５月10日	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会開催にあたって	岡室美奈子（演劇博物館館長）
2017年７月31日	和田勉と起源のテレビドラマ	木原圭翔（演劇博物館助手）
2017年９月13日	「アフリカ横断一万粁（キロ）―関根吉郎とアフリカ・マヤ資料コレクション―」	ナワビ矢麻（會津八一記念博物館助手）
2017年11月８日	「狩谷棭斎墓碑受贈記念　狩谷棭斎　―学業とその人―」展に寄せて	徳泉さち（會津八一記念博物館助手）
2018年３月14日	早稲田大学歴史館開館記念企画展「東京専門学校に集った学生たち―在野精神の源流」に寄せて	廣木　尚（大学史資料センター助教）

2．メールニュース（文化企画課）

発行号数	発行日	主　な　記　事
69	４月27日	・「予想外が待っている」Museum Week 2017開催
70	５月26日	・「予想外が待っている」Museum Week 2017開催中
71	６月30日	・伊藤比呂美氏　特別講演 & 人生相談
72	７月28日	・2017年度夏季休業期間（８月４日～９月20日）の事務取扱等について ・大隈記念室閉室について ・早稲田大学坪内逍遙大賞受賞者 連続イベント 第１弾 アカデミックリーダーセミナー「雄猫から二日酔いへ―言語とアイデンティティー」 ・早稲田大学坪内逍遙大賞受賞者　連続イベント　第２弾 伊藤比呂美氏　特別講演 & 人生相談 ・第10回早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業学生演劇公演 「美濃加茂に贈る、あたしとぼくの、ヒーローのショー」（劇団森）
73	８月30日	・中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2017」
74	９月29日	・【シンポジウム】新しくみえてきた早稲田の歴史―『百五十年史』編纂過程の成果と課題― ・早稲田文化芸術週間2017 オープニングライブ ・小学生のための心と身体をひらくワークショップ「からだ・おんがく・ことばであそぼう！」【早稲田文化芸術週間】 ・東京2020　公認教育プログラム　川淵三郎キャプテン企画「早稲田2020」講演会【早稲田文化芸術週間】 ・芸術の秋、日本の音色　～学生と職員による三味線・箏・尺八演奏～【早稲田文化芸術週間】 ・夏目漱石生誕150周年と漱石山房記念館【早稲田文化芸術週間】 ・世代を超えた早稲田棋士　加藤一二三×竹俣紅トークショー【早稲田文化芸術週間】
75	10月27日	・多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ ・中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2017」
76	11月24日	・世界ハンセン病デー特別企画「朗読劇『あん』と映画『あん』」
77	12月25日	・第２回　早稲田大学シェイクスピア上演プロジェクト　リーディング公演『コリオレーナス』 ・世界ハンセン病デー特別企画「朗読劇『あん』と映画『あん』」
78	１月26日	・世界ハンセン病デー特別企画「朗読劇『あん』と映画『あん』」 ・美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業　みのかも「声のドラマ」の会　朗読公演
79	２月23日	・2018年３月20日（火）14：00「早稲田大学歴史館」開館 ・早稲田大学歴史館開館記念企画展『東京専門学校に集った学生たち　―在野精神の源流―』
80	３月15日	・2018年３月20日（火）14：00「早稲田大学歴史館」開館 ・早稲田大学歴史館開館記念企画展『東京専門学校に集った学生たち　―在野精神の源流―』

3．新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの

掲載日・掲載号	媒　　体	記事題名	取り扱い箇所
４月30日	CINRA.NET	TVドラマの変遷辿る『大テレビドラマ博覧会』坂元裕二＆是枝裕和も登壇	演劇博物館
５月４日	CINRA.NET	『山田太一展』で映像や台本、直筆原稿を展示　演出家による座談会も	演劇博物館
５月６日	朝日新聞　夕刊	ドラマの魅力、再発見　早大演劇博物館で博覧会、13日から	演劇博物館
５月10日	The Japan Times	Art Openings: Dreaming / Media: TV Drama Exhibition	演劇博物館
５月13日	夕刊フジ	来週どこ行こう？何しよう？　山田太一展	演劇博物館
５月16日	朝日新聞　夕刊	「武者小路実篤の書画」	會津博物館
５月22日	テレビ朝日「東京サイト」	大学博物館	會津博物館
５月22日	ステージナタリー	「あゝ新宿」展の第２弾はアングラ×ストリート×ジャズ、関連トークも	演劇博物館
５月24日	信濃毎日新聞	「アングラ」新宿往時伝える展示　写真など　来月から	演劇博物館
５月26日	読売新聞	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館

文化発信

掲載日・掲載号	媒　　体	記事題名	取り扱い箇所
5月27日	大学知的見聞録2018	大学のミュージアムを巡るガイドブック	會津博物館
5月27日	SKYWARD	アジアでも有数の演劇専門博物館へ	演劇博物館
5月29日	新宿経済新聞	新宿高野本店で「あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ展」	演劇博物館
6月1日	読売新聞	敬意とエール伝わるドラマ展	演劇博物館
6月1日	「ブレーン」7月号	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
6月1日	日本芸術文化振興会ニュース	「落語とメディア」展を終えて	演劇博物館
6月1日	東京新聞　朝刊	「武者小路実篤の書画」	會津博物館
6月2日	「東京人」7月号	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
6月2日	「東京人」7月号	「あゝ新宿」展の第2弾はアングラ×ストリート×ジャズ、関連トークも	演劇博物館
6月2日	Japan Design Net	あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ展	演劇博物館
6月3日	CX「新・週刊フジテレビ批評」	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
6月3日	MX「TOKYO MX NEWS」	あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ展	演劇博物館
6月6日	DiscoverJapan	ドラマの歴史をプレイバック！展覧会で考える未来のテレビの在り方	演劇博物館
6月6日	GALAC	「大テレビドラマ博覧会」を調査せよ！	演劇博物館
6月9日	毎日新聞　夕刊	早大演劇博物館で大ドラマ博	演劇博物館
6月9日	夕刊フジ	あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ展	演劇博物館
6月10日	東京新聞	早大演劇博物館で『大ドラマ博』 魅力　若い世代へ　ドラマへの情熱　テレビへの思い	演劇博物館
6月11日	神奈川新聞	早大演劇博物館で『大ドラマ博』 魅力　若い世代へ　ドラマへの情熱　テレビへの思い	演劇博物館
6月14日	NHK「首都圏ネットワーク」	1960年代新宿の記憶再び　アングラ　JAZZ　新宿は熱かった	演劇博物館
6月17日	しんぶん赤旗	歴史と魅力　再発見	演劇博物館
6月19日	読売新聞　夕刊	ドラマの歴史　魅力に浸る	演劇博物館
6月19日	読売新聞　夕刊	早稲田大学芸術功労者顕彰記念「山田太一展」	演劇博物館
6月20日	朝日新聞　夕刊	あゝ新宿　アングラ×ストリート×ジャズ展 「路上」の生々しさ　色濃く	演劇博物館
6月21日	伊豆新聞	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
6月23日	毎日新聞　朝刊	「武者小路実篤の書画」	會津博物館
6月24日	日本経済新聞	テレビドラマ　創生期からたどる博覧会	演劇博物館
6月28日	LEE WEB	ドラマ好き必見！　早稲田大学演劇博物館の『大テレビドラマ博覧会』へ	演劇博物館
6月29日	「hanako」1136号	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
6月29日	ステージナタリー	平田オリザが講師の「エンパク★こども演劇教室　2017」	演劇博物館
6月30日	ウェブサイト「インターネットミュージアム」	會津八一記念博物館	會津博物館
7月1日	陶説 7月号	「やきものに見る吉祥」	會津博物館
7月3日	47NEWS	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
7月3日	「J-Life」2017年夏号	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
7月3日	朝日新聞　夕刊	第80回逍遙祭「シェイクスピアの上演と翻訳」	演劇博物館
7月6日	DiscoverJapan WEB	ドラマの歴史をプレイバック！ 展覧会で考える未来のテレビの在り方	演劇博物館
7月6日	HuffPost Japan	『カルテット』の4人の会話、忘れられないのはなぜ？　いいドラマの条件を聞いてみた	演劇博物館
7月7日	東京新聞　朝刊	「やきものに見る吉祥」	會津博物館
7月10日	週刊ポスト	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
7月12日	「GINZA」8月号	大テレビドラマ博覧会で時をかける！	演劇博物館
7月12日	東京新聞	来月、子ども向け演劇教室	演劇博物館
7月18日	新聞協会報	テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会	演劇博物館
7月20日	「GINZA」WEB	大テレビドラマ博覧会で時をかける！	演劇博物館
7月22日	The Japan News	Nostalgic walk through 60 years of TV dramas	演劇博物館
7月22日	サンケイスポーツ	尾野真千子「テレビの見る夢 ― 大テレビドラマ博覧会」関連トークイベントに登場	演劇博物館
7月25日	「芸術新潮」8月号	テレビっ子は入院中	演劇博物館
7月28日	高田馬場新聞	早稲田学生も知らない？早稲田大学演劇博物館（エンパク）は入場無料の贅沢空間だった。	演劇博物館
7月28日	ウェブマガジン「ほとんど0円大学」	大学ミュージアム図鑑	會津博物館
7月29日	しんぶん赤旗	語る機会通し作られる自分　尾野真千子さんが話す「カーネーション」大テレビドラマ博覧会～早大演劇博物館	演劇博物館
8月1日	陶説 8月号	「やきものに見る吉祥」「小野義一郎コレクションの陶磁器―東南アジア・イスラーム地域を中心―」	會津博物館
8月3日	朝日新聞	テレビドラマ　残す難しさ	演劇博物館
8月9日	ステージナタリー	早稲田大学演劇博物館、創立90周年に向け2018年3月まで休館	演劇博物館
9月1日	陶説 9月号	「やきものに見る吉祥」	會津博物館
9月4日	ステージナタリー	演劇博物館×東京乾電池、別役実「小さな家と五人の紳士」を展示室で無料上演	演劇博物館
9月12日	毎日新聞　夕刊	劇団東京乾電池　一日無料公演　柄本明さん演出・出演　早大で来月	演劇博物館
9月14日	まち歩き地図東京	會津八一記念博物館	會津博物館
9月15日	メトロウォーカー　秋号	秋散歩コラム①「クラシックな建築物を探訪」	會津博物館
9月21日	作家別・あの名画に会える美術館ガイド（江戸絵画篇）	會津八一記念博物館	會津博物館
9月25日	ステージナタリー	活弁士の語りと生演奏で彩る、無声映画の野外上映「エンパクシネマ」	演劇博物館

掲載日・掲載号	媒　　体	記事題名	取り扱い箇所
10月１日	月刊絵手紙 10月号	「禅書画のたのしみ」	會津博物館
10月３日	読売新聞　夕刊	エンパクシネマ	演劇博物館
10月５日	ステージナタリー	岡崎藝術座「バルパライソの長い坂をくだる話」日本語版リーディングに古舘寛治ら	演劇博物館
10月６日	朝日新聞　夕刊	エンパクシネマ	演劇博物館
10月８日	読売新聞	シェークスピア劇　蜷川さんの演出語る　英でシンポ	演劇博物館
10月12日	CINRA.NET	エンパクシネマ	演劇博物館
10月14日	東京新聞	エンパクシネマ	演劇博物館
10月16日	CINRA.NET	岡崎藝術座リーディング公演『バルパライソの長い坂をくだる話』	演劇博物館
10月20日	毎日新聞	エンパクシネマ	演劇博物館
10月23日	CINRA.NET	無声映画を弁士付き野外上映、『エンパクシネマ』にチャップリンなど３作品	演劇博物館
10月30日	東京新聞	蜷川マクベス　シェークスピア研究者「作品は英日の宝」	演劇博物館
11月１日	日経おとなのOFF 11月号	大学博物館０円探訪	會津博物館
11月１日	文学座通信　11月号　vol.699	日本物（和物）の芝居の継承とこれからの文学座 ―百周年に向けて―	演劇博物館
11月４日	東京新聞	東京どんぷらこ「都電荒川線編」③早稲田 ―90周年リニューアル、エンパク青空市	演劇博物館
11月11日	朝日新聞　夕刊	生き続ける蜷川演出　「マクベス」30年ぶりロンドンで再演	演劇博物館
12月１日	ステージナタリー	「劇的なるものをめぐってⅡ」上映会、鈴木忠志×渡辺保トークも	演劇博物館
12月８日	東京新聞　朝刊	「みほとけの形」	會津博物館
12月８日	手塚治虫シェイクスピア漫画館	日本で体験できるシェイクスピアの世界　早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	演劇博物館
12月12日	朝日新聞　夕刊	「みほとけの形」	會津博物館
12月23日	東京新聞	鈴木忠志×渡辺保『劇的なるものをめぐってⅡ』上映会	演劇博物館
12月23日	日本経済新聞	鈴木忠志×渡辺保『劇的なるものをめぐってⅡ』上映会	演劇博物館
2018年１月12日	朝日新聞　夕刊	シェークスピアをたどって	演劇博物館
2018年２月２日	東京新聞　夕刊	大波小波「演劇をやっているつもりはない」―鈴木忠志×渡辺保『劇的なるものをめぐってⅡ』上映会	演劇博物館
2018年２月27日	ステージナタリー	早稲田大学演劇博物館がリニューアル、歌舞伎・文楽の展覧会「エンパク玉手箱」	演劇博物館
2018年３月２日	東京新聞　朝刊	「花と鳥」	會津博物館
2018年３月７日	文豪とアルケミストぴあ　ゆかりの地めぐり	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	演劇博物館
2018年３月７日	CINRA.NET	「歌舞伎と文楽」の魅力や楽しみ方を紹介　早稲田大学演劇博物館のコレクションを軸にした『歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱』展	演劇博物館
2018年３月15日	新宿Plus	新宿区の文化にふれる　近代産業遺産と建造物めぐり	演劇博物館
2018年３月20日	朝日新聞　夕刊	歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱	演劇博物館
2018年３月21日	The Japan Times	Japanese Entertainment: Enpaku's Treasure Box of Kabuki and Bunraku	演劇博物館
2018年３月22日	CINRA.NET	「歌舞伎と文楽」の魅力を多角的に紐解く展覧会　写楽の錦絵も限定展示	演劇博物館
2018年３月31日	東京新聞	早稲田大学演劇博物館―ニッポンのエンターテインメント　歌舞伎と文楽のエンパク玉手箱	演劇博物館

4．早稲田大学文化資源データベース　（http://archive.waseda.jp/archive/）

1．目　的

「早稲田大学文化資源データベース」は、坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの三機関および図書館が所蔵する美術工芸品、書画、文書、博物資料、古典籍など早稲田大学の貴重な文化資源を広く世界に向けて公開することを目的として、2017年６月から公開している。

2．主要機能・特徴

文化資源に係る数多くのデータベースをワンストップで横断検索し、資料の画像情報や付属資料詳細などを閲覧することができるほか、絞り込み検索、年表や地図表示などさまざまなアプローチで資料に到達できる。資料のデータや検索結果ページなどは「クリップ」することができ、その情報はURLとともにサーバに保存され、「クリップ集」ページでほかのユーザーに公開されることも大きな特徴である。公開データ数は70万件を超えており、さらなる増加を目指すとともに、国内外を問わず幅広いユーザーからのアクセス数を伸ばしていくことが当面の目標である。

文化施設

【博物館・資料センターの概要】

名称	坪内博士記念演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	歴史館	考古資料館（本庄キャンパス）
所在地	5号館	2号館	79号館	1号館	91号館
概要	1階：京マチ子記念特別展示室　日本の映画とテレビ 六世中村歌右衛門記念特別展示室 和書閲覧室	1階：企画展示室 富岡重憲コレクション展示室 大隈記念室（大学史資料センター所管）	5階：レファレンスルーム ・歴史的資料 ・高等教育出版物 ・高等教育関係資料	1階：「久遠の理想」エリア 「進取の精神」エリア 「聳ゆる甍」エリア 企画展示ルーム シアタールーム リサーチルーム カフェ ミュージアムショップ インフォメーションルーム	1階：考古資料収蔵庫
	2階：逍遙記念室 企画展示室	2階：常設展示室 ・東洋美術資料 ・近代美術資料 ・考古資料 ・アイヌ民族資料 ・書画資料			
	3階：日本の演劇（古代、中世、近世、近代、現代） 世界の演劇　ヨーロッパ・アメリカ				
	6号館3階 ・貴重書・外国語図書閲覧室 ・AVブース				
お問い合わせ	Tel：03-5286-1829 E-mail：enpaku@list.waseda.jp	Tel：03-5286-3835 E-mail：aizu@list.waseda.jp	Tel：042-451-1343 E-mail：archives@list.waseda.jp	Tel：03-6380-2891	Tel：0495-24-1081

【文化施設の概要】

名称	大隈記念講堂		小野記念講堂	ワセダギャラリー	125記念室
	大講堂	小講堂			
所在地	21号館1階	21号館B1階	27号館B2階	27号館B1階	26号館10階
利用目的	式典 講演・討論 舞台・上演	講演・討論 舞台・上演	講演・討論 演劇・映画	小規模な企画展 写真・絵画など	展覧会 美術品・貴重品
座席数	1,121席（車椅子用2席）	300席（車椅子用1席）	206席 （最小161席・最大236席）	—	—
主要設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 同時通訳設備 ネットワーク設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 ネットワーク設備	常設展示壁 可動式展示壁 展示台 ディスプレイ	展示ケース 映像音響設備
付属施設	控室 調整室 調光室 映写室 同時通訳ブース	控室 調整室	楽屋・準備室 調整室	—	—
その他	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	※2017年5月より閉室

※「125記念室」は貸出の対象ではありません。

文化推進部は「大隈記念講堂」「小野記念講堂」「ワセダギャラリー」を管理している。学内行事を開催することを優先しているが、そのほか学生団体を含め、学内団体のみならず学外の機関・団体にも広く利用されている。また、大隈記念講堂については外部からの多くの見学者が訪れている。

1．大隈記念講堂

大隈重信を偲び、創立45周年の1927（昭和2）年10月15日に竣工された。創立125周年にあたる2007年10月に改修工事を終え、リニューアルオープンされた。全館空調設備が整えられ、情報系の設備も完備した多様な用途に応えられる施設となった。早稲田大学のシンボルとして、大隈記念講堂は大講堂・小講堂とも学内外の機関から国際会議、演劇、コンサート、映画などに利用されている。2007年12月に国の重要文化財に指定された。

2．小野記念講堂

正門前の歴史的景観ゾーン整備の一環として、2005年に建設された小野梓記念館（27号館）の地下2階にオープンした。「文化活動の成果を発表し、さらに世界の文化と交流を図るためのホール」にすることを目標にしている。

3．ワセダギャラリー（56.35㎡）

2014年秋に小野梓記念館地下1階にリニューアルオープン。写真展、絵画展、書展などに利用されている（学内箇所・教職員利用可）。

文化施設

■施設利用の状況

2017年度 文化施設	使用日数※1	利用団体内訳					その他※3
		利用件数	学内箇所	学生団体	教職員有料※2	学外団体	
大隈記念講堂大講堂	262日	205件	174件	30件	—	1件	119件
大隈記念講堂小講堂	257日	205件	184件	20件	—	1件	104件
小野記念講堂	215日	144件	135件	5件	3件	1件	72件
ワセダギャラリー※4	215日	10件	10件	—	—	—	—

※1 使用日数には、本番当日だけでなくリハーサル、設営準備、撤収日も含む。
※2「教職員有料」とは、本学専任教職員が所属する学会や学術団体が利用する場合である。
※3「その他」とは下見、見学、施設点検、定期清掃などが含まれる。
※4 学内箇所のみ利用可能である。
※5 大隈記念講堂・小野記念講堂については、1～4月と8月は公式行事、施設点検、定期清掃などのメンテナンスのため原則外部団体への貸出は行っていない。

■ワセダギャラリー使用状況

イベント名	開催期間	主催
早稲田スポーツ展　～仰ぐは同じき理想の光～	3月20日～4月28日	競技スポーツセンター
第2回ブータンフォーラム	5月18日～6月2日	平山郁夫記念ボランティアセンター
第8回　早稲田学生文化・芸術祭	6月5日～11日、6月18日～26日	学生部、文化推進部
オープンカレッジ芸術展（木版画展）	6月12日～17日	エクステンションセンター
長崎原爆　写真展	7月7日～25日	異文化交流センター
早稲田文化芸術週間2017	10月2日～28日	文化推進部
ヒトラーに抗した学生たち　―ミュンヒェン・白バラを中心に―	10月17日～11月11日	村上公子研究室（人間科学学術院）
オープンカレッジ芸術展（水彩画展、写真展）	11月13日～12月11日	エクステンションセンター
教育学部博物館実習授業成果展示	2018年1月6日～31日	教育学部博物館実習授業Gクラス
早稲田スポーツ展　～仰ぐは同じき理想の光～	2018年3月22日～4月28日	競技スポーツセンター

大隈記念講堂
大講堂

大隈記念講堂
小講堂

小野記念講堂

ワセダギャラリー

講堂設備技能判定会・初心者説明会

学生団体が大隈記念講堂および小野記念講堂に設置されている照明などの各設備を利用するにあたり、技能判定会の受験および合格を義務付けている。専門技師が各講堂設備を使いこなせる技術力の判定を行い、技量のある学生に調整室への入室許可を与えている。年間で複数回開催している。

講堂設備技能判定会

■大隈記念講堂（照明設備）
2018年2月6日（火）、2月7日（水）、 2月27日（火）（参加者24名）

■小野記念講堂（照明設備）
2018年2月26日（月）、3月8日（木）（参加者12名）

■文化推進部【文化企画課所管】

1．三機関長協議会

(1) 開催記録

6月5日

(2) 委員

（2018年3月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職
1	李　　成市	文化推進担当理事
2	十重田裕一	文化推進部長
3	石見　清裕	文化推進部副部長
4	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長
5	塚原　　史	會津八一記念博物館館長
6	大日方純夫	大学史資料センター所長

2．出版企画委員会

(1) 開催記録

第1回　8月1日
第2回　2018年2月8日

(2) 委員

委員会は、出版企画委員会設置要綱の規定による本部役職委員4名、各学術院長推薦委員10名、文化推進を担当する理事推薦委員2名の合計16名で構成されている。嘱任期間は2016年5月1日～2018年4月30日である。なお、出版審査内容は非公開のため、委員名を省略する。

■坪内博士記念演劇博物館

1．坪内博士記念演劇博物館協議員会

(1) 開催記録

第1回　5月22日　　第2回　7月10日　　第3回　9月28日　　第4回　2018年2月23日
臨　時　2018年3月23日

(2) 委員

（2018年3月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	岡崎　由美	文学学術院教授	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館規則第9条一号による委員（文学学術院選出）
2	小松　　弘	文学学術院教授	
3	武田　　潔	文学学術院教授	
4	竹本　幹夫	文学学術院教授	
5	藤井慎太郎	文学学術院教授	
6	水谷　八也	文学学術院教授	
7	荻野　静男	政治経済学術院教授	第9条二号による委員（第一号以外の学術院・学校選出）
8	大森　信徳	法学学術院准教授	
9	石原　千秋	教育・総合科学学術院教授	
10	アルマラス　マヌエラ	商学学術院准教授	
11	但田　　栄	理工学術院教授	
12	佐藤　洋一	社会科学総合学術院教授	
13	中村　　要	人間科学学術院准教授	
14	杉山　千鶴	スポーツ科学学術院教授	
15	辛島　デイヴィッド	国際学術院准教授	
16	小向　和誠	高等学院教諭	
17	吉田　　茂	本庄高等学院教諭	
18	保坂　　猛	芸術学校准教授	
19	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	第9条三号による委員
20	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長	第9条四号による委員
21	児玉　竜一	坪内博士記念演劇博物館副館長	

■會津八一記念博物館

1．會津八一記念博物館協議委員会

(1) 開催記録

第１回　５月17日　　第２回　11月15日　　第３回　12月18日　　第４回　2018年２月21日

(2) 委員

（2018年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	ロペス・アルフレド	政治経済学術院教授	第10条一号による委員（学術院選出）
2	谷　　昌親	法学学術院教授	
3	肥田　路美	文学学術院教授	
4	内山　精也	教育・総合科学学術院教授	
5	小澤　悦夫	商学学術院教授	
6	永田　　靖	理工学術院教授	
7	卯月　盛夫	社会科学総合学術院教授	
8	谷川　章雄	人間科学学術院教授	
9	太田　　章	スポーツ科学学術院教授	
10	岡村　三郎	国際学術院教授	
11	近藤　二郎	文学学術院教授	第10条二号による委員（館長推薦）
12	坂上　桂子	文学学術院教授	
13	高橋龍三郎	文学学術院教授	
14	丹尾　安典	文学学術院教授	
15	成澤　勝嗣	文学学術院教授	
16	山田　磯夫	文学学術院教授	
17	千葉　俊二	教育・総合科学学術院教授	
18	内田　悦生	理工学術院教授	
19	古谷　誠章	理工学術院教授	
20	下野　玲子	會津八一記念博物館主任研究員	
21	深澤　良彰	図書館長	第10条三号による委員
22	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長	
23	大日方純夫	大学史資料センター所長	
24	李　　成市	文化推進担当理事	第10条四号による委員
25	古谷　修一	教務部長	第10条五号による委員
26	十重田裕一	文化推進部長	
27	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	第10号六号による委員
28	川尻　秋生	會津八一記念博物館副館長	
29	今村　昭一	會津八一記念博物館事務長	第10条七号による委員

■早稲田大学歴史館

1．早稲田大学歴史館設立準備委員会

(1) 開催記録

第５回　４月11日　　第６回　５月19日　　第７回　６月８日　　第８回　７月25日　　第９回　９月26日
第10回　10月31日　　第11回　11月30日　　第12回　2018年１月16日　　第13回　2018年２月19日

(2) 委員

（2018年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	島田　陽一	常任理事（法人統括担当）	１号委員（総長指名理事）
2	李　　成市	理事（文化推進担当）	
3	恩蔵　直人	理事（広報、入試担当）	
4	十重田裕一	文化推進部長	２号委員
5	岡本　宏一	キャンパス企画部長	
6	天野　紀明	総長室長	
7	大日方純夫	大学史資料センター所長　文学学術院教授	３号委員（総長指名教職員）
8	塚原　　史	會津八一記念博物館館長　法学学術院教授	

■大学史資料センター

1．大学史資料センター運営委員会

(1) 開催記録

第１回　６月15日　　第２回　11月22日　　第３回　12月13日

(2) 委員

（2018年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	李　　成市	文化推進担当理事	第８条一号による委員
2	川口　　浩	政治経済学術院教授	第８条二号による委員
3	立花　英裕	法学学術院教授	
4	森田　貴子	文学学術院准教授	
5	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
6	横山　将義	商学学術院教授	
7	前田　惠一	理工学術院教授	
8	劉　　傑	社会科学総合学術院教授	
9	竹中　宏子	人間科学学術院教授	
10	石井　昌幸	スポーツ科学学術院准教授	
11	早瀬　晋三	国際学術院教授	
12	岡本　宏一	校友会常任幹事・総長室長	第８条三号による委員
13	沖　　清豪	文学学術院教授	第８条四号による委員
14	北河　賢三	教育・総合科学学術院	
15	大日方純夫	大学史資料センター所長	第８条五号による委員
16	古谷　修一	教務部長	
17	深澤　良彰	図書館長	
18	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	
19	十重田裕一	文化推進部長	
20	佐藤　宏之	総務部長	
21	三橋　重美	大学史資料センター事務長	

2．早稲田大学百五十年史編纂委員会

(1) 開催記録

第１回　７月５日　　第２回　12月20日

(2) 委員

（2018年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	李　　成市	文化推進担当理事	第４条一号による委員
2	佐藤　正志	教務担当理事	
3	花尾　能成	総務担当理事	
4	大日方純夫	大学史資料センター所長	第４号二号による委員
5	十重田裕一	文化推進部長	第４号三号による委員
6	恩蔵　直人	広報室長・理事	
7	深澤　良彰	図書館長	
8	川口　　浩	政治経済学術院教授	第４条四号による委員
9	土田　和博	法学学術院教授	
10	真辺　将之	文学学術院教授	
11	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
12	横山　将義	商学学術院教授	
13	武藤　　寛	理工学術院准教授	
14	劉　　傑	社会科学総合学術院教授	
15	加藤　茂生	人間科学学術院専任講師	
16	石井　昌幸	スポーツ科学学術院准教授	
17	佐久間まゆみ	国際学術院教授	
18	浅古　　弘	大学院法務研究科教授	第４条五号による委員
19	沖　　清豪	文学学術院教授	

2017年度　統　計

■各機関の主管施設の利用状況

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課	
展示室名	演劇博物館（５号館）	會津八一記念博物館（２号館）	大隈記念室（２号館１階）	125記念室（26号館10階）	早稲田大学歴史館（１号館１階）
開館日数	124	246	105	49	11
入館者数	35,850	45,364	12,581	1,568	4,463
展覧会企画件数	5	11	0	2	1
展覧会来場者数※1	63,026	62,937	0	1,568	4,463

■各機関文化事業および教育活動の実績総数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
催し物件数	39	1	1	11
催し物来場者数※2	7,358	40	118	23,562
各箇所設置および協力授業コマ数※3	9	48	4	0
各箇所設置および協力授業登録者人数※3	803	1,233	128	0
各箇所主催および協力課外活動実施数※4	17	198	1	6
各箇所主催および協力課外活動参加人数※4	593	3,303	594	2,490

※１ 展覧会には常設展と企画展が含まれる。
※２ 催し物は学内外での公演・講演会・（研究）公開講座とする。
※３ 各箇所設置および協力授業のコマ数は学内設置の授業のコマ数とし、登録者数は設置科目の人数のほか、学部・大学院授業への協力の授業の受講生数を示す。
※４ 各箇所主催および協力課外活動実施数は、見学授業・修学旅行・学校見学会など課外授業見学者の受け入れの件数のほか、学内外の生涯学習への協力（エクステンションや市民講座）、共催や地域交流事業の件数とし、参加人数は、上記定義に関連する事業に参加した人数とする。

■各機関学内外出品・協力件数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
各主管箇所出品・展示協力件数	4	13	4	0

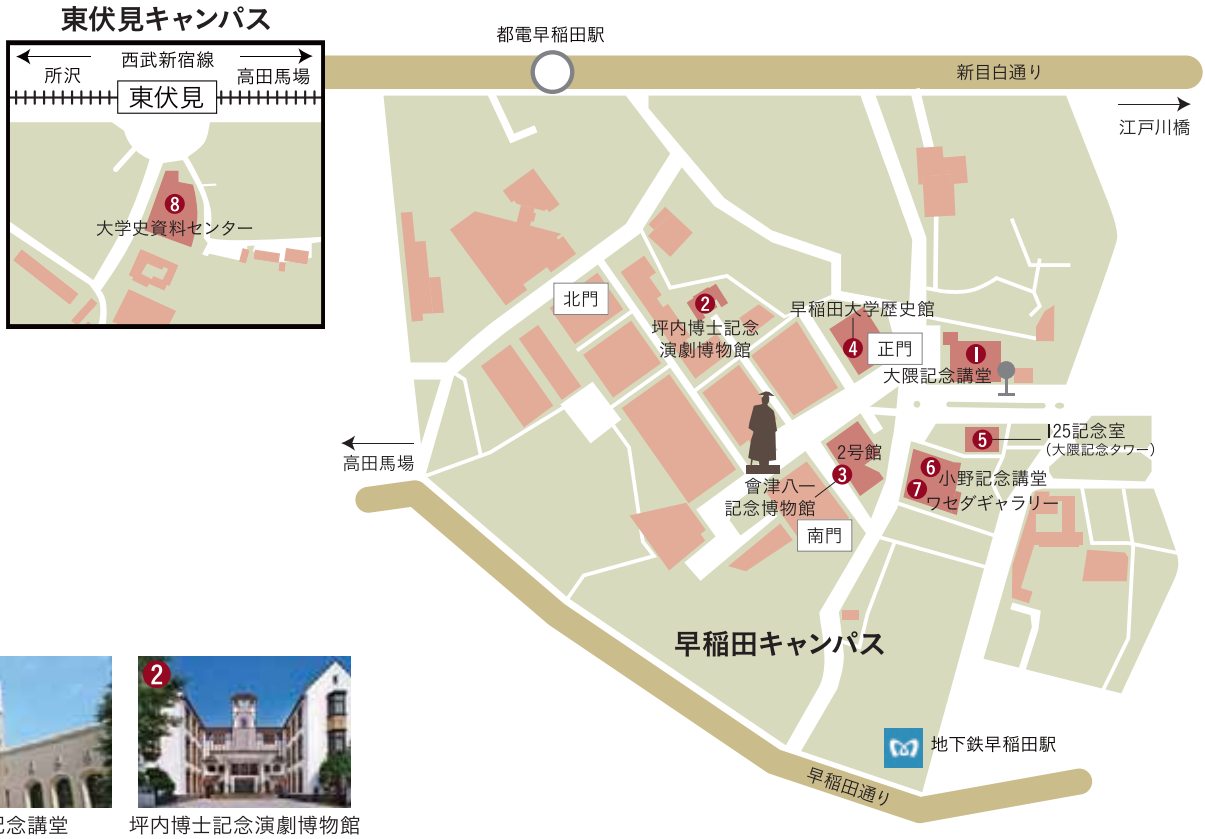
■図書資料・AV資料の受け入れ状況

主管箇所	和書	アジア圏図書（中国語・韓国語）	洋書	貴重書	AV資料	受け入れ図書総計	寄贈資料点数（図書以外）※6
坪内博士記念演劇博物館※5	2,392	346	377	51	4,290	7,456	26
會津八一記念博物館	541	43	4	0	0	588	0
大学史資料センター	807	0	7	17	7	831	500

※５ 演劇博物館は、演劇・映像関係図書収蔵の図書館を併設し、和書・アジア圏図書・洋書・貴重書・AV資料などを閲覧できる。
※６ 寄贈資料点数は、図書以外の寄贈資料の点数の総計である。なお、演劇博物館の点数については、件数を示している。

文化施設マップ・連絡先一覧

https://www.waseda.jp/culture/



大隈記念講堂

坪内博士記念演劇博物館

會津八一記念博物館

早稲田大学歴史館

125記念室(大隈記念タワー)

小野記念講堂

ワセダギャラリー

大学史資料センター

早稲田大学　文化推進部

文化企画課

Tel：03-5272-4783　Fax：03-5272-4784
https://www.waseda.jp/culture/　E-mail：art-culture@list.waseda.jp

坪内博士記念演劇博物館

Tel：03-5286-1829　Fax：03-5273-4398
https://www.waseda.jp/enpaku/　E-mail：enpaku@list.waseda.jp

會津八一記念博物館

Tel：03-5286-3835　Fax：03-5286-1812
https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/　E-mail：aizu@list.waseda.jp

大学史資料センター

Tel：042-451-1343　Fax：042-451-1347
https://www.waseda.jp/culture/archives/　E-mail：archives@list.waseda.jp

早稲田大学 文化推進部年報 2017年度版

2018年6月15日発行　発行人／十重田裕一　企画・編集・発行／早稲田大学文化推進部